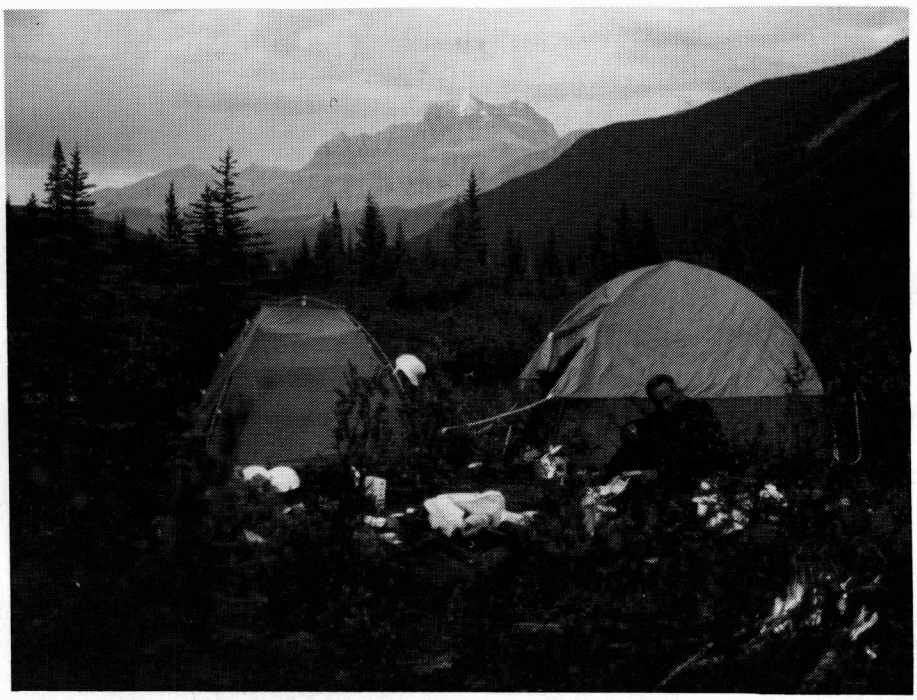
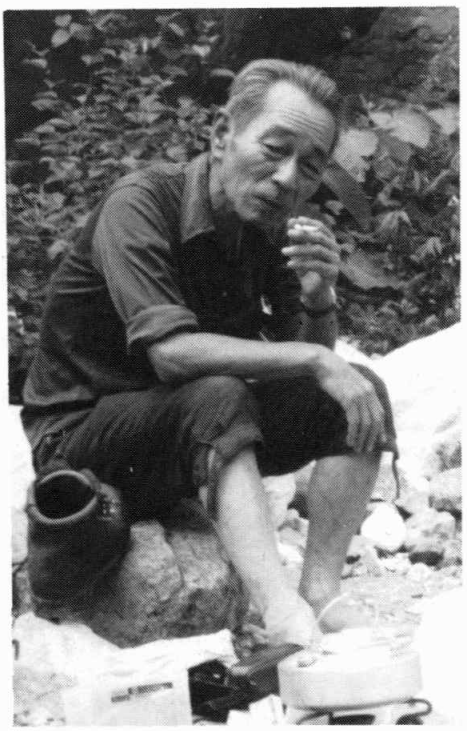
山田亮三山行譜



1990年1月



山　田　亮　三

（1920～1988）

於：白馬岳・三国境付近幕営地

（1983年８月、柿原和夫 撮影）

＜目　次＞

まえがき …… （ 1）

◇山行記録◇

Ⅰ. 1934～1942（山行番号　1～ 77） …… （ 3）

Ⅱ. 1954～1970（　〃　 78～163） …… （18）

Ⅲ. 1971～1975（　〃　164～272） …… （33）

Ⅳ. 1976～1980（　〃　273～354） …… （48）

Ⅴ. 1981～1986（　〃　355～500） …… （58）

◇予定山行コース◇

日帰りの山・ムリヤリコース …… （75）

天幕の旅６９コース …… （76）

南北アルプス拾遺８コース …… （76）

◇山行総括表◇ …… （77）

（表紙写真説明）

カナディアン・ロッキーでのキャンプ

― Howse River 谷の Glaciar Lake 畔にて

（１９８１年８月１６日、加藤博行　撮影）

ま　え　が　き

われわれの畏敬する先輩・山田亮三さんが逝って、早くも1年近くたってしまった。

山田さんは、われわれにとって常に人生の師であったが、同時に、大切な山の仲間であった。山田さんは、自分には大変厳しく、頑くなに自由人としての孤高の人生を貫いた人であったが、一方では、他人に対しても、自然に対しても、謙虚であり寛大であった。とくに登山において、そうであった。だから、山田さんの周囲には、晩年まで男女の関係なく、年令の差を越えて山好きの多くの人が集まり、山行計画が次から次へつくられ、実行に移された。それは正に"よき山"、"よき友"、"よき酒"が三位一体の登山であった。

山田さんが亡くなられてから、一橋大学山岳部ＯＢ会である針葉樹会の骨折りで、「針葉樹会報」の特集という形で山田さんの追悼文集が作成された（1989年7月）。そして、山田さんの山の蔵書をまとめて、大町エコノミスト・センターに「山田亮三山岳文庫」が設置された（1989年8月）。この「山田亮三山行譜」は、その意味で山田さんを追悼する企画の第3弾である。

山田さんが登山を始めたのが１４歳、中学生のときであった。それ以来、病状が悪化し病床での闘病生活を強いられるようになった６６歳のときまで、５２年の間に山田さんは合計５００回に及ぶ登山を行なっている。登った山は６１１座に達する。大変な実績である。

これらの山行結果は、①編年山行譜、②主要同行者別山行譜、③登頂山リスト、の３つに分類され、闘病中に自からの手によって丁寧に整理され、われわれの手に残された。

山田さんは名文家であったから、数々の素晴らしい紀行文を残しているが、この山行譜は、事実のみが語りかけてくる重みの故に、正に山田さんの生命をかけた最高の傑作と云う気がする。この山行譜を、山田さんの追悼と同時に、生前親しく山行を共にしてきた仲間の共有財産として残しておきたいという趣旨で、本書がつくられた。

遺された山行譜の途中までは、ひとつひとつの山行について山田さんが簡単な感想やコメントを書かれているが、病状悪化のために、１９７３年までのところで中断されている。その後の分については、主要な山行のみ、同行者によって当時の状況を鮮明にすべく饒舌にならぬ程度の簡単なコメントを付してある。

山田さんが病気が治ったら行くつもりで病床で地図とにらめっこでつくったと思われる予定山行コースも、貴重な資料なので山名のみ収録した。

本書の刊行にあたり、編集から印刷までの作業は倉知敬君が一手に引受けてくれた。

山田さんには幾つもの顔があった。登山家だけではなく、エコノミストであり、学者であり、テレビの解説者でもあった。その意味では、この山行譜は、山田さんの登山家としての一面のみを映したものには違いない。しかし、登山には全く関わりのなかった人が本書を繙いたとしても、山田さんが、これでもか、これでもか、という位に心をこめて山を登り続けた記録を通じて、山田さんの多面性や人柄や生き方の一端を感じとっていただけるのではないか、と秘かに期待している。

刊行にあたって、「何もかも公衆の面前におおっぴらにしちゃってー」という、山田さんの照れたような、困ったような、皮肉っぽい笑顔が浮かんでくる感じがするが、残されたわれわれの仲間一同としては、時々は本書を繙き勇気を奮い起して山田さんの登れなかった新しい山に登り、山田さんの分まで大いに山を楽しんでいきたい、と考えている。

山田さんのご冥福を祈りつつ

1989年11月5日　香港にて　中　島　　寛

◇ 山 行 記 録 ◇

＜凡　例＞

5　遠見尾根より五竜岳　　＜89＞
(イ)　(ロ)　　(ハ)

神城－遠見小舎－……
(ニ)

△3　㊡　　藤島敏男、村尾、望月、……
(ホ)　(ヘ)　　(ト)

山登り復活の転機となった画期的登山。……
(チ)

(イ)　月。その山行の行なわれた月を表わす。5なら5月。

(ロ)　登った山、又は尾根、地域。

(ハ)　山行番号。自宅を出発してから帰る迄を一回と数え、通し番号をつけたもの。(但し、一旦下山して、別の同行者と(又はひとりで)別の山へ登る場合は一回)

(ニ)　登山ルート。或いは山行の趣旨説明。

(ホ)　山行日数。

(ヘ)　天幕携行。

(ト)　同行者名。再出の場合苗字のみ。

(チ)　１９７３年５月の山行迄(山行番号２１３迄)は書き遺された自筆の山行記・感想、又は会報等の引用文。(それ以降の分は(イ)～(ト)までしか書かれていなかった。)
山行番号２１４以降は、主要な山行のいくつかについて、何人かの同行者の方に依頼し、その印象を短文にまとめてもらったもの。また、会報等に発表された本人又は同行者の文があるものについては、その一部を引用した。

＜Ⅰ＞

1934　　（14才）

1　高尾山・陣馬山・生藤山　　＜1＞

浅川－高尾山－日影沢－城山－小仏峠－景信山－陣馬山－連行山－生藤山－三国山－上野原

②　　ひとり

はじめての山。子供のくせに白ブドー酒持参で出かける。尾崎喜八さんの影響だろう。同氏の「山の絵本」は当時の座右の書であった。大快晴の陣馬山頂から眺めた白銀の南アルプスの印象は強烈。サッカーから山への転向第一歩。

3　陣馬山・小坂志川　　＜2＞

上野原－陣馬山－和田峠－道に迷う－小坂志川－笹平－本宿－五日市

②　㊇　　級友数名

はじめての幕営。借物の軍隊用テントと薄い毛布で、ひどく寒かったことを覚えている。地図の読方も知らず、小坂志川に迷い込み、夢中で沢ぞいに下って笹平に出る。滝のないおだやかな沢で助かる。

7　神津牧場・妙義山　　＜3＞

軽井沢－八風山に迷う－香坂峠－神津牧場－市の萱－妙義山－横川

④　㊇　　小野常雄

大島亮吉さんの文章にひかれて出かける。考えてみると、自分の山登りは、山の本を読むことからはじまったといえるようだ。大島さんの「山」は、尾崎さんの前掲書や田部重治さんの「峠と高原」とならんでもっとも大きな影響を与えられた本の一つであった。とりわけ自分の山への志向を決定的にしたのは同じ「山」に収められた「峠」の中の次の一節である。やや長いが引用しておきたい。

「……その他私のいまだに知らず、そして話にきいていて、いつかゆきたいと思っているのは、岩手の太平洋岸に向いた低い起伏の多い高原地のあいだにある峠である。それもずっと北東寄りで、鮫港と宮古とのあいだの山地である。先年私の目上の友人松本信広氏が柳田国男氏と共にフォウクロアの研究のために約一カ月もそこに歩かれたが、そのときの話によって、私はあのフィヨルドのような深い入江と断崖つづきで、浜茄子の花の佗しく咲いた海辺に沿うての一村ごとにつづいているという峠のことや、またその海辺から陸地へとつづく遠い辺陬の荒地のあいだの、我国にはめずらしいほど貧しい農民生活をしている村々のうちをつなぐ峠のありさまなどを久しく心にえがいている。そこは日本の愛蘭土だそうだ。そんな民俗学的な興味をはなれても、たしかに私の行ってみたいところだ。ことに階上岳のようにそのわずかの高さですでに偃松と岩石の多いヘザーランドの頂を鬘髪とさせるような山頂さえもがあるに於ては」

1935　　（15才）

3　馬頭刈尾根・大岳山　　<4>

五日市－軍道－光明山－馬頭刈山－大岳山－御岳山－日の出山－軍畑

②　　石川三郎

石川は中学時代山を語りあえる唯一人の仲間であった。

7　尾瀬から日光へ　　<5>

沼田－戸倉－鳩待峠－山の鼻－尾瀬ヶ原－尾瀬沼－燧ヶ岳往復－鬼怒沼－八丁湯－湯沢峠－丸沼－菅沼－金精峠－湯元－日光

⑥ (天)　　山田　晋

はじめて自分のテントを買っての嬉しい幕営行。当時の尾瀬は清潔で静かで夢のように美しいところであった。はじめて山らしい山の燧ケ岳に登って大満足。同行は兄。

10　石老山　　<6>

与瀬－山口－石老山－篠原－与瀬

①　　渡辺暁雄

はじめてヤブこぎを経験。当時の石老山はまだそんな山であった。

1936　　（16才）

3　陣馬山より三頭山へ　　<7>

上野原－陣馬山－生藤山－土俵岳－丸山－槇寄山－三頭山－数馬峠－氷川

③ (天)　　晋

槇寄山附近で幕営した夜、高畑棟林氏と逢い、色々と山の話を聞く。再び兄貴を誘いだしたが所詮は山とは縁なき衆生だったのだろう。これが兄にとっての最後の山となった。

1937　　（17才）

3　高尾山　　<8>

浅川－高尾山－大垂水峠－浅川

①　　ひとり

国立での大学の入学試験が午前中に終ったので、頭を冷しに行く。

4　大倉高丸　　<9>

初鹿野－湯の沢峠－大倉高丸－田野鉱泉－初鹿野

①　　東京商大山岳部員　18

山岳部新入部員歓迎コンパ。

5 富士山 ＜10＞

吉田口より富士山頂上往復

②　　山岳部員 11

午后は雪ゆるみ、頂上から直ちにグリセード。はじめ一寸ビビったが、やがて大胆になり、雪上にボーゲンを描く。

5 甲斐駒ケ岳 ＜11＞

韮崎－台ヶ原－屏風小舎－頂上往復－台ヶ原－韮崎

②　　小泉三郎

一年生2人、北岳をはじめ雄大な南アの山々をはじめて眺めて感嘆。新緑の黒戸尾根の下りからみる八ケ岳も見事に美しい。

6 高尾山 ＜12＞

浅川－山下沢－日影沢－城山－高尾山－浅川

①　　級友多数

クラス・ハイキング。当時は日影沢に感じの良い山小舎が建っていた。小雨もようの一日、小舎で盛大なタキ火をたいて気分を出す。

7 剱沢生活 ＜13＞

富士－称名滝－鏡石小舎－剱沢三田平ＢＣ（別山側壁、八ツ峰下半、クレオパトラ・ニードル）

⑪ ㊡　小谷部全助、小林重吉、森川真三郎、榎本直司、鷲崎雄四郎、原鉄三郎、岩崎利一、大塚　武、日江井正巳、船本文治、里見治男、宮城恭一、木島利夫、高橋広三郎、小泉

山岳部夏合宿。ザイルをつけての岩登りをはじめて体験する。ニードルでは全助さんと（最初にして最后の）ザイルを組む。

7 剱沢より薬師岳・槍ケ岳へ ＜14＞

剱沢ＢＣ－雄山－五色ヶ原－越中沢岳－薬師岳－北俣岳－黒部五郎岳－三俣蓮華岳－西鎌尾根－槍沢－上高地

⑦ ㊡　　森川、船本、大塚、日江井、里見、木島、宮城、高橋、小泉

足のマメに悩まされた一週間の旅。加えて後半は雨とガスで、どんなところを歩いたのかほとんど記憶に残っていない。槍の肩に幕営しながら頂上を踏まないという哀れな始末であった。

8 聖沢より赤石岳・塩見岳 ＜15＞

下山波高島－転付峠－流沢－日影沢出合－聖沢試登－上河内岳北の肩から落ちる尾根－国境稜線－聖平－聖岳－赤石岳－荒川岳－小河内岳－三伏峠－塩見岳－蝙蝠岳－西俣桜島－転付峠－下山波高島

⑩ ㊡　　大塚

徹底的にしごかれた山行であった。ことに聖沢から上河内岳北の肩まで2日正味13時間50分のきびしいヤブこぎは一年生として体力の限界。それでも最后まで頑張り通したことで、山

岳部員として何とかやってゆける自信めいたものが生れたことも事実である。

10 甲斐駒ヶ岳・鋸岳・仙丈岳 <16>

韮崎－台ヶ原－屏風小舎－甲斐駒ヶ岳－六合小舎－鋸岳－六方石－仙水峠－北沢小舎－仙丈岳－戸台－伊那

⑥ 小泉

鋸岳では大ギャップ沢から鹿の窓に到るルンゼを見誤まり、第一高点に達しなかったが、全体として好天に恵まれた快適な新雪山行。当時の六合小舎は実に好感のもてる真に山小舎らしい小舎であった。

12 富士山 <17>

富士吉田－五合目小舎－富士山八合目往復－小御岳－富士吉田

② 佐々木誠、森川、里見

烈風物凄く、登頂を断念。冬富士のきびしさを知る。

12 徳沢小舎生活 <18>

島々－沢渡－中の湯－上高地－徳沢ＢＨ（涸沢池の平・奥又白松高ルンゼ下スキー・下又白出合スキー）－上高地－沢渡－島々

⑫ 小谷部、森川、佐々木、榎本、船本、岩崎、原、大塚、日江井、里見、木島、小泉、久保孝一郎

山岳部冬合宿。はじめてのスキー。涸沢池の平の下りでは七転八倒。それでも松高ルンゼ下で練習する頃にはいくらか上達し、徳沢小舎まで快適に滑降する。連日の風雪にどこにも登れず、この時期の北アルプスのきびしさを体験する。

1938 （18才）

1 赤城山スキー <19>

① 吉沢一郎、村尾金二、増山清太郎、小柳二郎、新羅二郎、森川、佐々木、岩崎、小泉、久保

針葉樹会・山岳部懇親スキー。

2 蓬峠スキー <20>

① 久保

3 岩原スキー <21>

① 石川

このあと石川は陸軍士官学校に入り早く中支で戦死した。そうとわかっていれば何としてでも商大への入学をすすめたのに!!

3 八ヶ岳赤岳鉱泉生活 ＜22＞

茅野－柳沢－赤岳鉱泉ＢＨ（赤岳・阿弥陀岳・硫黄岳・峰ノ松目・横岳）

⑦ 望月達夫、大塚、里見、木島、宮城、高橋

山岳部（予科）春合宿。雪少なくスキーは快適ならず、かつ山も北アルプスあたりにくらべてきびしさに欠けるようだ。

〃 **唐松岳・五竜岳** ＜23＞

信濃四谷－黒菱－八方尾根－唐松岳－唐松小屋－五竜岳往復－黒菱－四谷

⑤ 木島、高橋（唐松まで）

合宿の延長戦。連日の快晴。素晴らしい展望コースを十分に楽しむ。

4 冷沢入り爺ヶ岳 ＜24＞

大町－西俣スキー小舎ＢＨ（1,971メートル尾根から爺ヶ岳・長ザク・北俣スキー）－鹿島－大町

⑥ 大塚

はじめてザイルをつけて雪稜を登る。もう一本鎌尾根を予定していたが天候崩れ後日に。長ザク、北俣のスキーは意外に快適であった。

〃 **金峰山・信州峠・横尾山** ＜25＞

韮崎－金山－松平牧場－金峰山往復－信州峠－横尾山－野辺山

③ ㊇ 高橋、木島、宮城、久保、樫淵明

5 乾 徳 山 ＜26＞

塩山－徳和－乾徳山往復－塩山

① 望月、佐々木、大塚以下部員9

山岳部新入部員歓迎登山（但し新入部員なし）。

〃 **鹿島槍ヶ岳**（東尾根・天狗尾根） ＜27＞

簗場－黒沢峠－冷沢小舎－二ノ沢－東尾根－鹿島槍－キレット小舎－カクネ里－天狗尾根－北俣－簗場

入部以来の最高の山行。当時の記録に「快晴に恵まれた四日間の幸な山行、鹿島川の渡渉、キレットの通過注意す可し、キレット小舎感じ良し」とあるように、朝夕紅に輝く雪の劒を眺めてすごす。この時期のキレット小舎の生活は実に素晴らしい。天狗尾根から前々年の春、小谷部・森川のパーティによって積雪期初登された荒沢の奥壁をつぶさに眺めたが、登攀の対象として考えるにはまだ遠い気持であった。

7 穂高涸沢生活 ＜28＞

島々－上高地－涸沢池の平ＢＣ（前穂北尾根・奥穂直下・ジャンダルム・北穂側稜・涸沢槍右側稜・滝谷Ｂルンゼ・同第三尾根）－横尾－上高地

⑮ ㊇ （前半）山岳部員9 （後半）佐々木、大塚

合宿終了後Ｓ・Ｏとテントに残る。はじめて滝谷に入りＣルンゼと間違えてＢルンゼを登る。Ｂルンゼは落石のはげしい恐ろしいところであったが滝谷の全容を知るにマイナスではなかっ

た。ついで第三尾根を登って核心部を眺め、Oとともにその魅力にとらえられる。

8 畳石よりジャンダルム <29>

上高地ＢＣ－岳川谷－畳岩－ジャンダルム－天狗のコル－天狗沢－上高地ＢＣ

③ ㊡ 大塚

畳岩は一カ所２ピッチほどザイルで確保しただけ。岩登りの対象としてはつまらぬところだ。

〃 熊木沢より蛭ヶ岳・焼山 <30>

渋沢－雨山峠－ユウシン休泊所－熊木沢－蛭ヶ岳－姫沢－焼山－鳥屋

④ 府中八中サッカー部員６名

9 シレイ沢岩小舎生活 <31>

甲府－大曽利－五葉尾根－シレイ沢岩小舎（赤抜沢試登）－五葉尾根－大曽利

⑦ 大塚、木島、宮城

北岳バットレスを目指して出発したが連日の豪雨で野呂川の徒渉不可能。バットレスどころか最後はすさまじい暴風雨の中を命からがらの退却を強いられる。当時の記録に次のようにある。

「9.5. 暴風雨。天候は全然恢復の望みがないので計画は全く放棄。大塚、山田はこの雨ではもう一日様子を見る事にして、十時頃木島、宮城は暴風雨の中を五葉尾根へ。二人が去った後時計を持っていない残留組は昼寝をして何時間か過したが、不図見ると岩小舎横の小流はどうどうたる濁流となって我々のシュラーフの下一尺位に迫っている。顔を見合せて暫らく茫然、漸て五葉尾根に避難する外ないと決して、食料等重いものを一切置いて篠つく雨の中を出発。かなり悲壮な気持。対岸の斜面を背景に雨の足が白々と物凄いばかり。左岸のおひは全く濁流に呑まれて上部を途中一箇所アンザイレンして通過、この辺の本流の増水は、どうどうと波を打って驚くばかり。遂にノンストップで伐採小屋に着き先着のK.Mと合する（5. 30）。この夜は猿又までぬいで乾かし、翌日になって他人のと変っているのを見て苦笑。」（針葉樹10号）

〃 谷川岳マチガ沢 <32>

土合－一の倉沢出合ＢＣ－一の倉沢偵察（雨で戻る）－土合山の家－マチガ沢－谷川岳－西黒尾根－土合

③ ㊡ 樫淵 （前半）小泉

10 奥又白池生活 <33>

島々－上高地－徳沢－奥又白池ＢＣ（北尾根奥又側五峰側壁）－徳沢－上高地－島々

⑥ ㊡ 佐々木、大塚

予科の試験をおえて先発隊を追ってひとり徳沢へ。素晴らしい快晴ではじめての奥又入りを目指して心の躍るような一日であった。しかし池では五峰の側壁を登ったあと天候悪化して暴風雪となる。丈の高い純冬期用天幕は散々にあふられ、人間を入れたまま動き出しそうな荒れ方。張り綱は切れ、ラジウスも点火せず、やむなく前穂東壁に心を残しながら下山する。

なおこの時期、徳沢小舎に滞在していた森川は次のように書いている。

「奥又白に登る三人を見送って出合迄行く。梓川は水量が多く徒渉が辛らそうだった。何回

か繰返したこの徒渉も、今日出来なくなって了った。黒々とした奥又白の奥壁が見上るような所に聳えている。あの一番真中の一番険しい所を目指して過してきた此の永い年月のことが何かよその事の様に思える。幾人かの人が命を落し又更に多くの人々が致命的な傷手を与えられた。併しこの清澄な尊厳な山の姿は、大自然のままに何事もなかったように静まり返っている。」

11　釜無川より鋸岳・大武川　　＜34＞

富士見ー釜無川ー横岳峠ー角兵衛の頭ー鋸岳第一高点ー第二高点ー大ギャップ沢ー甲斐駒六合小舎ー六方石ー仙水峠ー大武川ー赤薙橋ー日野春

④　　ひとり

山岳部生活一年半。この季節にこの程度の山をひとりで自由に歩き廻れるようになったことを喜ぶ。

〃　富士山　　＜35＞

吉田口より富士山頂上往復

②　　佐々木、原、大塚、小泉、佐藤政雄

12～1　横尾岩小舎生活　　＜36＞

島々ー中の湯ー徳沢ー横尾岩小舎ＢＨ（涸沢池ノ平スキー・北穂高南峰直下に天幕建設及び徹収）ー徳沢ー上高地ー島々

⑳　　佐々木、大塚、上條末雄（人夫）

北穂山頂に幕営して滝谷第三尾根を目指したが、連日の風雪に天幕の建設と徹収のみに終る。２０日間の入山中快晴１日、半晴２日、あとははげしい風雪とあってはどう仕様もない。前年に続いて冬の北アルプスのきびしさを痛感する。

1939　　（19才）

1　鬼怒高原スキー　　＜37＞

①　　岩崎、大塚、宮城、樫淵、森下、根本大

3　穂高岳川谷生活　　＜38＞

島々ー奈川渡ー坂巻ー上高地ー岳川谷ＢＣ（天狗のコルより西穂高、西穂高沢左俣下降・堀割のルンゼより明神岳Ⅱ峰、Ⅰ峰、上手宮川下降）ー上高地ー中の湯ー島々

⑲ ㊡　　大塚　（前半）船本、宮城、久保

山岳部の春合宿というのに参加者は僅かに５人。それも前半の幕営生活だけで３人下山。実際に山に登ったのは２人だけ。それが当時の一橋山岳部の実態であった。

この山行も天候に恵まれず、予定していた奥又白の計画は全く放棄せざるをえなかった。

4　大倉高丸　　＜39＞

初鹿野ー湯の沢峠ー大倉高丸ー田野鉱泉ー初鹿野

①　　船本、大塚、日江井、宮城、深谷、久保、根本、佐藤、樫淵、

林正敏、高野秀男、鈴木肇、清水一郎

山岳部新入部員歓迎コンパ。この年度新入部員多し。

4 白峰北岳 <40>

芦安－夜叉神峠－蝮平－荒川谷（K事故引返す）－蝮平小舎－池山釣尾根－北岳－往路を戻る－夜叉神峠－芦安

△7 天 大塚、樫淵、根本、佐藤

はじめの計画は5人で荒川谷から白峰の稜線に出、O.Kは大井川東俣に下り雪投沢をへて塩見・蝙蝠へ、Y.N.Sは北岳より野呂川を下り仙丈、駒をへて韮崎に下山するというものであった。しかし荒川谷遡行中、森林帯の高まきで、K、落葉に足をとられてスリップ（森林帯でも急斜面でスリップした場合、人間は宙を飛ぶことを経験する。幸い大きな倒木の側にリュックをつけたまま仰向けに止ったため、50メートルの転落にかかわらず大事にいたらず、頭部に裂傷を負っただけで、翌日、O.Sがつきそって甲府に下山させることが出来た）せるため、予科生3人は日数がなくなり北岳登頂のみに変更。Oひとり別れて北岳から東俣に向う。この時期の荒川谷は増水で意外に悪く、計画が甘かったのも事実であり、経験の浅いKを同行したことも問題であった。

5 谷川岳 <41>

土合――の倉沢出合BC－マチガ沢－谷川岳－西黒尾根－BC－芝倉沢往復－土合

△3 天 船本、日江井、久保、佐藤、根本、林、高野、鈴木、小柳英二郎、佐藤真一、関岡賢治

新人の雪上技術訓練行。

6 前穂高東壁 <42>

島々－上高地－徳沢－松高ルンゼ下BC－奥又白本谷偵察－松高ルンゼ－池－東壁Bフェース・Aフェース－前穂高岳－A沢－松高ルンゼ－BC－徳沢－徳本峠－島々

△5 天 大塚

残雪多く池はまだ深い雪の下。加えてOがアイゼンを忘れたので池に上ることをやめ、松高ルンゼ下からラッシュ。東壁Aフェースではノーマル・ルートの右手のバリエーションに取ついたがひどく悪く、ハーケンの上にのったOが、いきなり頭上のホールド目がけて飛び上ったのに仰天する。奥又の岩場は滝谷とちがった味があるようだ。

7 穂高涸沢生活 <43>

島々－上高地－涸沢池の平BC（前穂北尾根、ジャンダルム飛騨尾根、涸沢槍右側稜、滝谷第三尾根）－徳沢－上高地BC

△13 天 山岳部員10数名

何となく穂高が自分の庭であるような気がしてきた。この頃から本格的にザイルのトップをつとめるようになる。

〃 下又白谷 <44>

上高地BC－下又白谷偵察

△3 天 山岳部員若干名

7 錫杖・笠より烏帽子へ ＜45＞

上高地－中尾峠－槍見－錫杖岩小舎－烏帽子岩試登－クリヤ谷－笠ヶ岳－抜戸岳－双六池－鷲羽岳－野口五郎岳－ブナ立尾根－葛温泉－大町

⑥ 佐藤 （双大池より）大塚、根本、清水

錫杖岩小舎は実に感じの良いところだ。烏帽子岩をねらったが研究の不足もあって手もなく撃退され、経験と技術の不足を痛感する。

笠から槍をこえて一気に徳沢まで行ってビールを飲むつもりで双六池までくると大塚の一行にバッタリ。説得されて一緒に裏銀へ。葛温泉では3本飲んだビールが勘定書についてなかったのであわてて逃げだす。

9 北岳バットレス ＜46＞

韮崎－青木鉱泉－ドンドコ沢－白鳳峠－広河原－大樺小舎ＢＨ（北岳バットレス　第一・第三・第四尾根）－往路を戻る－韮崎

⑧ 大塚、根本、高野

Ｏ・Ｔで第三・第四尾根、Ｙ・Ｎで第一・第四尾根を登る。第四尾根のマッチ箱の附近は実に気持の良いところであった。第一尾根のオーバー・ハングの基部に全助さんの打った一本のピトンが霧にまかれていたのもなつかしい。

小谷部・森川の初登以後、第一尾根の記録は当時みなかったから、あるいはわれわれが第二登だったのかもしれない。

10 穂高涸沢生活（滝谷第四尾根） ＜47＞

島々－上高地－徳沢－涸沢池の平ＢＣ（滝谷第四尾根・穂高小舎への冬期用物資荷上げ）

④ ㊡ 大塚、佐藤、根本、小柳

冬の計画を滝谷に決定。穂高小舎へ荷上げをかねてＯ・Ｙで第四尾根を登る。他は北尾根へ。万事順調に進展。今年はうまくゆくかも知れぬとの予感あり。

〃 **殺生小舎生活**（小槍・北鎌尾根） ＜48＞

涸沢ＢＣ－横尾本谷－横尾々根－中岳－大喰岳－殺生小舎ＢＨ（大槍東面・小槍・北鎌尾根・同側稜）－槍沢－懐沢－上高地－島々

⑤ ひとり

横尾本谷出合でみんなにわかれ、ひとり槍ヶ岳を目指す。翌年春山の偵察行。横尾々根のコルに前進キャンプ。大喰岳頂上附近に雪洞を掘って小槍をねらってみよう。そう予定をたてて殺生小舎に下る。小舎には三日滞在、東面からはじめて槍の頂上を踏んだのをはじめ小槍・北鎌尾根で単独のクレッテライを経験する。連日日本中の山が全部見えるような大快晴。人っ子一人いない槍ヶ岳を独占しての快心の山であった。

12 北穂高頂上幕営生活 ＜49＞

島々－沢渡－中の湯－徳沢－涸沢－穂高小舎－北穂頂上ＢＣ（滝谷第二・第三・第四・第五尾根、涸沢槍右側稜）－涸沢－徳沢－中の湯－島々

⑫ ㊡ 大塚、根本、佐藤

雪また雪に明け暮れした過去2年の冬山とちがって、１０年来とかいう好天に恵まれた幸いな山行であった。Ｏ・Ｙで懸案の第四尾根（積雪期第２登、厳冬期およびワンピッチ登攀初登）

を登ったほかO・Nで第二・第五尾根を、Y・Sで第三尾根・涸沢槍右側稜をトレースする。すべてが楽しくなつかしい快心の山であったが、とりわけ強烈な印象を残したのはツルムの頭でのビバークの一夜であった。このビバークについて「針葉樹会報」に書いた二つの文章（この間40年をこえる才月が流れている）を引用しておきたい。

「ザイルをはずし、衣類を着込んでスッポリツェルトをかぶった。ローソクをつけ、煙草に火を點けると、朝からの緊張からやっと解放され、落付いた気分が戻ってくる。残ったパンを食い終ればもう明日の夜明けを待つだけだ。時間のたつのが驚く程遅い。寒さと寂しさをまぎらわす為、大声で歌をうたってみる。安曇節を知ってるだけやって見ても、二十分しか経たぬのにはがっかりした。ツェルトの内部はバリバリと氷が張り、まるで氷洞の中に居るようだ。外では崩れかかった天候も再び回復して素晴らしい月夜となった。ツェルトの隙間からふと覗いた月光の滝谷の景観、其山は夢幻とも神秘とも云い様のないものだった。"一体これが日本の山なのだろうか！？"」（1940. 1）

「Cカンテからガリーという第四尾根の最困難部を突破してトップの大塚さんがツルムを登りきったのは午後五時半であった。崩れかけた天候がその頃から回復しやがて夜の滝谷に月が上った。今でも忘れない、月明の冬の滝谷の圧倒的な景観。ドームは眼前に黒く高く、雪稜は神秘の青白色に輝き、岩壁は不気味な灰色に光る。異常なまでに美しい自然の中に生きる登山者としての喜び、そのときめくような感動が何物にもかえがたい二人の共有財産となったのだ」（1983. 12）

大塚は1958年8月南日高神威岳で不慮の死をとげた。後者は彼を悼む文章の一部である。いずれにせよこの滝谷行は、大塚との山登りの一つの頂点となるものであった。

1940　（20才）

2　奥日光スキー　＜50＞

△3　山岳部員数名

3　横尾本谷入り槍ヶ岳　＜51＞

島々－中の湯－上高地－徳沢－横尾岩小舎前ＢＣ－横尾本谷－横尾々根ＡＣ－南岳－中岳－大喰岳ＳＨ－槍ヶ岳－ＡＣ－ＢＣ－徳沢－中の湯－島々

△12 (天)　根本　（前半）高野

横尾のＢＣに入ったのはたったの3人、しかもTは横尾々根への第一回の荷上げの後身体を悪くして下山、天幕は2人となる。それでもどうにか前進キャンプをあげ、大喰岳に雪洞を掘ったがその翌日から風雪。小槍をあきらめ、晴れ間を盗んで大槍に登っただけで退却した。

その後、山田はひとり横尾のテントに残り前穂の北尾根か北穂の北壁を単独で登るつもりであったが、松高の奥又白での遭難にぶつかり気を悪くしてNとともに下山。

4　岩殿山　＜52＞

大月より岩殿山往復（新入部員歓迎コンパ）

△1　山岳部員多数

4 富士山 <53>

富士吉田ー五合目トタン小舎ー頂上往復ー富士吉田

④ 佐藤 （八合目まで）中川孫一、増山、望月、久保

体力的に最も充実していた時期。一番おそく五合目を出発、あらゆるパーティを抜いてノンストップで頂上へ。下りは大沢を一直線に下降。強風のため八合目で引返した先輩たちを追越して真先きに五合小舎に帰る。

5 鹿島槍荒沢奥壁 <54>

築場ー黒沢峠ー鹿島川ー造林小舎ー荒沢ー大滝上ＢＣー奥壁南稜ー東尾根ー三ノ沢ー冷沢小舎ーＢＣー黒沢峠ー築場

④ 天 佐藤

奥壁南稜の第二登。自分の山登りにとってのこの登攀の意義を、かつて（昭和３０年）次のように書いたことがある。

「小谷部・森川の両先輩が奥壁北稜の積雪期初登攀に成功したのは昭和十二年の三月、その四月に入部した私は、奥壁の写真を見せられて思った。何時になったら自分もこんな所を登れるようになるのだろうか、と。翌年の五月に、天狗尾根を登って奥壁を眺めたときも、登攀の対象として考えるには余りに遠い気持であった。しかしまた一年たつ。より高くより険しい世界がひろがってゆく。昨年は駄目だと思っていた壁が、今年は登れるかも知れぬと思われてくる。あれこれの文献をあさり、登攀の詳細を思い描き、内心の問答をいくたびか繰返すうちにどうしたって登れるという確信が湧いてくるのだ。山登りの進歩というものであろう。その意味でも荒沢の奥壁は、私にとって忘られぬ思い出を残している。もっとも壁の登攀自体はえらく急峻なブッシュこぎに終始。岩登りとしての興味は薄い」（針葉樹１１号）

6 穂高小舎生活（滝谷第一・クラック尾根） <55>

島々ー上高地ー徳沢ー涸沢ー穂高小舎ＢＨ（滝谷第一・クラック尾根）ー徳沢ー上高地ー島々

⑦ 大塚、日江井、清水、佐野茂雄、前田道夫

滝谷で登り残していたクラック尾根と第一尾根をトレースする。第一尾根は意外に悪く、Ｏ、Ｈ、Ｙの３人パーティということもあって時間がかかりＢフェースでまっ暗。Ｏはフェースを登り切った上段のテラスで、Ｈは中段、Ｙは下段というように三人三様、バラバラで岩にもたれてビバーク。快晴であったがそれだけに寒い寒い一夜であった。

クラック尾根はＯ、Ｙの２人で快適に登る。

7 針ノ木峠より五色ヶ原へ（友田純一遭難） <56>

大町ー大沢小舎ー針ノ木峠ー針ノ木谷ー平ー五色ヶ原ー越中沢岳下降中、友田縦走路より転落、頭部を強打して死亡ー五色ヶ原ー立山温泉ー富山

⑨ 天 山岳部員多数

余りにも大きなショックであった。自分の山登りの挫折第一歩。いまだに何も書く気にならぬ。

8 穂高涸沢生活 <57>

島々ー上高地ー徳沢ー涸沢池の平ＢＣ（滝谷クラック尾根・第二尾根・北山稜・第三尾根・中央稜、北尾根三峰フェース）ー横尾ー徳沢

⑨ 天　　清水、佐野、高野、小林茂雄、松下順吉

上高地の荷物の整理方々涸沢に入り連日若い連中を滝谷に案内する。参加者の一人の小林が次のように書いてくれたのがせめてものなぐさめであった。

「すでに一種、云いようのない重苦しい空気はひしひしと学園の内外にも浸透して来ていたが、昭和十五年七月の友田の遭難は、部を部内からも激しく揺り動かした。その夏の合宿計画は、それに続く多くの計画や希望とともに消え失せていったが、その翌月、本一の山田が、当時予二の高野、松下、小林、専二の佐野、清水、鈴木等を引連れての涸沢生活は、其の様な暗い低迷の中にあってからくも次の時代へのくさびとなった。当時、いろいろな意味で部の内部には或る空白状態が生れようとしていた時に、此の涸沢に於ける生活はささやかなものであったが、後から来る若い部員にとっては省みて意義のある生活であったと思う」（針葉樹11号）

8 奥又白池　＜58＞

徳沢ー松高ルンゼ下ー奥又白池ー往路を戻るー上高地ー島々

④ 天　　ひとり

涸沢を下って佐藤と久保に逢い徳沢でゲロをはくまで痛飲した。飲まずにはおられぬ心境。翌日は二日酔で池に上るのに2日かかる。三峰リッジでも登るつもりだったが、山はガス、ムリはよそうとさびしく引上げる。

10 鹿島槍ヶ岳・爺ヶ岳　＜59＞

築場ー黒沢峠ー鹿島川ー冷沢小舎ー赤岩尾根ー冷池小舎ー鹿島槍ヶ岳・爺ヶ岳往復ー往路を戻るー築場

⑥　　佐野、小林

新設の後立山を白馬まで縦走するつもりでピッケル・アイゼンにザイルまで持参して出かけたが積雪皆無。拍子ぬけした上に天候悪化であっさり引上げてしまう。どうもこの頃から山に対するひたむきな気持が薄れてきたようだ。

12 冷沢小舎生活　＜60＞

築場ー黒沢峠ー鹿島川ー冷沢小舎ＢＨー鹿島ー大町

⑥　　佐藤、久保

去年の快晴続きが信じられぬような連日の風雪。カマ尾根をあきらめ深いラッセルで大町へ出る。町までスキーはきっはなし。昔は雪が多かったものだ。

〃 乗鞍岳スキー合宿　＜61＞

位ヶ原小舎　スキー練習と乗鞍岳登頂

⑥　　堀岡清ＯＢ他部員多数

入部以来はじめてスキー合宿なるものを経験する。正直にいって張合いのない物足りぬものだ。

〃 槍ヶ岳（小槍ザッテル）　＜62＞

乗鞍位ヶ原小舎ー前川渡ー中の湯ー徳沢ーー一の俣小舎ＢＨー槍沢ー殺生小舎ー槍肩ー小槍ザッテルー往路に戻るＢＨー徳沢ー中の湯ー島々

⑥　　佐野、前田

3月に失敗した小槍の積雪期初登をねらったが、この時期の小槍は、ホールドがすべて氷雪にとざされ、夏場では想像も出来ぬほど悪くなっている。カッテイングに余りに時間がかかりすぎることを知ってザッテルから退却。一の俣からのピストンではやはり時間的にムリだったようだ。徳沢で村尾、堀岡、小谷部の諸先輩にあう。先輩たちが南岳に行くというので凍傷気味の前田を小舎に残し佐野と2人北穂の北壁へでもと一緒に出かけたが途中シールを忘れたことに気がついてUターン。「現役のくせにダラシがない」と助さんに叱られたことを覚えている。

1941　（21才）

4 岩殿山 ＜63＞

大月より岩殿山往復（新入部員歓迎コンパ）

①　部員多数

5 西穂高岳・槍ヶ岳より北穂高岳 ＜64＞

島々ー上高地ー西穂高沢右俣ー稜線SHー西穂高岳ー上高地ー槍沢小舎ー槍沢ー槍ヶ岳ー中岳ー南岳ーキレットー北穂高岳ー涸沢ー徳沢

⑤ 天　森一則、前田

西穂から槍へ行くつもりで西穂の稜線に雪洞（シュラフももたぬ軽装で、森と私が寒くて寝られないでいるのに前田ひとりグーグー大いびき）を掘ったが、その日の午后から天候崩れ岳は雪、下界は雨、やむなく上高地に下り、2日後槍沢小舎に入る。午後3時出発、槍の頂上を踏み、穂高への縦走路に入る。稀にみる大快晴で実に気持の良い5月の山。この日は北穂まで行き、涸沢を下って徳沢に泊る。

〃 明神岳東稜 ＜65＞

徳沢ー明神池ー途中BPーひょうたん池ー明神東稜ー上手宮川ー徳沢ー上高地ー島々

④ 天　ひとり

ひょうたん池はまだ雪の下なのでその手前でゴロ寝。東稜は急峻な雪のリッジでひとりでは一寸こわいところがある。徳沢の炉辺で上條孫人にさんざんヘル談をきかされる。

7 五色ヶ原生活（友田追悼碑建設） ＜66＞

富士ー立山温泉ー五色ケ原BCー友田純一追悼碑建設

⑥ 天　根本、佐藤、林他2～3名

みんなの努力でリッパな追悼碑が完成した。劔から針ノ木から富山から沢山の人が集っての除幕式。だが考えてみれば、ほんの気休めにすぎぬ空しい仕事だ。

〃 五色ヶ原から薬師岳・槍ヶ岳へ ＜67＞

五色ヶ原ー越中沢岳ー薬師岳ー太郎平ー薬師沢ー黒部川源流ー三俣蓮華岳ー双六池ー槍ヶ岳（一部は小槍に登る）ー槍沢ー徳沢ー上高地

⑦ 天　山岳部員17名

「針葉樹」11号に小林が次のように書いている。

「併しながら此の時、時局情勢の緊迫は遂に、学生の合宿は即時中止と云う文部省の指令となって全国に飛んだ。ラジオもない山の中の事とて日米開戦か蘭印に対する直接行動かなどといろいろな憶測が飛び出した。私たちも一応、合宿を中止して引上げると云う事にした。但し帰路は当初の予定の如く槍を経て徳沢へと云う事になった」

10 甲武信岳（前田、長沼、古沢3人の遺体捜索及収容） <68>

信濃川上ー横山ー十文字峠ー甲武信小舎BH（3人の遺体捜索と収容）ー戸渡尾根ー広瀬ー塩山

△8 山岳部員総動員

5人パーティが2人が生き3人（前田道夫、長沼広次、古沢幸平）が死んだ。笛吹川東沢のツメの密林の中、冷雨、強風による疲労凍死だが、何故、先に縦走路に抜け出した2人が仲間を助けに戻らなかったのか？ことに前田など路まであと5メートルのところで倒れていたことを思うと何とも割切れぬ気持、彼は生涯の友ともなるべきすぐれた人材だっただけに悔んでも悔みきれぬ思いが残る。後に私は次のように書いている。

「彼等が出発する前の日の部室で、"帰ったら穂高に行きましょう""ああ、北尾根に登ろうね"と約束して別れてそれっきりになった。一橋山岳部員としての前田の経歴は一年半の短かいものでしかない。当時の部の事情も前田にとって気の毒なものであった。入部した夏の合宿が友田の遭難、翌年の夏が記念碑の建設で、入部二年、前田はまだ北尾根や飛騨尾根など、穂高の入門的岩場を歩いていない。しかもその前年の秋には、私が鹿島槍から廻るからと約束しながら、彼をひとりで徳沢にまちぼうけさせたこともある。その罪亡ぼしに穂高を案内しようというのが前記の約束になったわけだが、こんどは前田が永遠に還らず、十年余の才月をへだててなお私の胸に痛恨の種を残すことになった」（「ハモニカ横町から前田まで」針葉樹会報復刊第3号　1955. 6）

11 海沢から大岳山 <69>

氷川ー海沢ー大岳山ー御岳山ー御岳

△2 ㊅ 部員数名

1942　（22才）

3 燕・赤倉スキー <70>

△5 根本、高野

学校が赤倉に小舎をつくるというのでその調査に出かけた筈だが、何を調べたのかサッパリ記憶にない。前年末の太平洋戦争の開戦でスキーに行くのも気がひけるような時世となった。自分にもマトモな山登りを考える気持は完全になくなっていたように思う。

4 小 楢 山 <71>

山岳部新入部員歓迎コンパ

△1 部員多数

4 三ッ峠岩登り <72>

初級者のための岩登りトレーニング

①　　部員多数

5 鹿島槍ヶ岳（鎌尾根） <73>

築場－黒沢峠－鹿島川－冷沢小舎ＢＨ（鎌尾根－鹿島槍南峰－北俣）

③　　山岳部員２０名

有力な多数の新入部員を迎え、総勢２１名での小合宿、久しぶりで明るい気分になる。

長い間の懸案であった鎌尾根をみんなでゾロゾロ登る。

〃 **爺ヶ岳より針ノ木岳へ** <74>

冷沢小舎ＢＨ－長ザク－爺ヶ岳－種池－岩小屋沢岳－鳴沢岳－スバリ岳－針ノ木岳－大沢小舎－大町

④ 天　　林他数名

種池では雪洞を掘った筈だが、どんな雪洞だったか全く記憶がない。

〃 **大倉高丸・大谷丸** <75>

学生は誰もが運動部に所属せねばならなくなり山岳部もムヤミに人間がふえた（一般部員と称す）。そうした連中を対象としたハイキング。

①　　一般部員多数

6 九 鬼 山 <76>

一般部員とのハイキング。

①　　一般部員多数

7 穂高涸沢生活 <77>

島々－徳本峠－徳沢－涸沢池の平ＢＣ（北穂側稜ジャンダルム第一テラス下のバットレス・滝谷第四尾根）－徳沢－上高地－島々

②④ 天　　部員多数

学生生活最後の山。

省みて悔の残る山岳部生活であった。ことに本科一年の春まで、前半の部生活がほぼ満足のゆくものであっただけに、後半の停滞と凋落が何とも無念でならない。その決定的な背景となったのは、２回にわたる遭難と戦争の激化であるが、それに加えて自分のマルクス主義との出合いが、他の一半の原因となったことも事実であった。少くとも社会科学への興味と関心が（たとえばレーニン選集を買うために春合宿に参加しなかったように）部生活初期のひたむきで純粋な山への情熱に何がしかマイナスを与えたことは否定できない。なるほどこの時期の勉強が後年エコノミストを職業とする上で貴重な財産となったことに間違いはないが、それにしても今から考えれば、何故あの時期にもっと登っておかなかったのかと後悔の念を禁ずることが出来ない。ことに縦横に登った滝谷はともかく奥又白の岩場には多くのみれんが残っている。

＜Ⅱ＞

1954　　（34才）

2　ニセコアンヌプリ・スキー　　＜78＞

②　　堀岡、林、小林

仕事で北海道に行き3人の旧友と再会。さそわれてニセコでスキー。1940年以来14年ぶりのスキーだが、雪の良い頃もあってボーゲンで回転出来て安心する。しかしこの時期まだ山やスキーを再開させる気持はなかった。

1956　　（36才）

6　谷川岳山麓めぐり　　＜79＞

土合ー新道ー幽沢最初の滝までー旧道ーー一の倉沢ひょんぐりの滝手前ー土合

①　　須崎美智

7　穂高涸沢（滝谷第三尾根・中央稜）　　＜80＞

島々ー上高地ー横尾ー涸沢池ノ平BC（滝谷第三尾根下降・中央稜途中まで）ー上高地ー島々

④ ㊡　　石原脩、一橋山岳部現役多数

山岳部の現役の連中（甘利や山本など）と新宿の酒亭でしばしば飲み、酔ったあげくの勢いで現役の涸沢合宿に参加することを約束、キャラバン・シューズを買って出かける。滝谷で最も気持の良い岩登りを楽しめる中央稜を目指したが最初のチムニーを登り切れずに退却、情けない話だ。石原が同行したが卒業したばかりの彼が登れないのだから仕方がない。（ダラシのない奴だ!!）

10　越沢バットレス岩登り　　＜81＞

古里ーバットレス下ーー般ルート登攀ー金比羅神社ー古里

①　　横山皖一、甘利仁郎、城戸剛　他

夏に味を占め「岩登りを楽しむ会」と称して仲間が集る。これが継続すれば良かったが、残念ながら一回で終り。

1960　　（40才）

5　乾　徳　山　　＜82＞

塩山ー徳和ー乾徳山往復ー徳和ー塩山

②　　針葉樹会員数名

同世代の古い仲間が集った時、どこかに行こうやという話になり古いなじみの乾徳山へ。
大変な混雑で頂上附近のクサリ場は大渋滞、おかげで頂上は踏まなかった。

1961　（41才）

6　小川谷カロー沢　<83>

氷川ー日原附近河原幕営ーカローー沢をつめるー山道ー日原ー氷川

②　㊡　横山、石原、吉田義則、大建二郎、他

針葉樹会懇親山行

8　中ノ湯滞在　<84>

上高地より西穂独標往復、安房峠附近散策のち平湯を通って高山に出る。

④　須崎

上高地は混むだろうと遠慮して中ノ湯に宿をとる。西穂独標まで登ったがまだ山登りというより観光気分。

1962　（42才）

8　上高地滞在　<85>

去年で味をしめ、こんどは上高地に宿をとり明神、横尾に遊び岳川谷、天狗のコル上に到る。

④　須崎

1963　（43才）

8　上高地滞在　<86>

奥又白池に登り、明神東壁下で岩壁見物。

④　須崎

1964　（44才）

8　上高地滞在（霞沢岳）　<87>

八右衛門沢より霞沢岳登頂、明神S字状ルンゼに遊ぶ

④　須崎

この年はじめて山らしい山のピークを踏む。もっともいぜんとして観光気分で本格的に山登

りを復活させようという気があったわけではない。

1965　　（45才）

9　剱岳より黒四ダムへ　　<88>

富山－室堂－雷鳥沢ＢＨ－剱御前より剱岳往復－－の越－東一の越－タンボ沢－黒四ダム－浅間温泉－松本

⑤　　須崎

恒例になっていた夏の上高地をサボった代償として剱岳を目指す。何故この時期剱を選んだのか理由はよくわからないが台風とともに出発したおかげで山では大快晴。帰りに寄った浅間温泉の宿も秀逸。

1966　　（46才）

5　遠見尾根より五竜岳　　<89>

神城－遠見小舎－中遠見ＢＣ－白岳より五竜岳往復－ＢＣ－神城－大町

③ ㊇　　藤島敏男、村尾、望月、山本健一郎、大橋喜治、中島寛、倉知敬他

山登り復活の転機となった画期的登山。当時書いた文章を引用しておく。

「昭和４１年５月の遠見尾根、五竜行でどうやら僕も山登りを取戻した。その直接の恩人はムリヤリ僕をひっぱりだした中島寛君や倉知君だが、それ以上に僕に山登り復活の勇気を与えてくれたのは、藤島敏男、村尾金二、望月達夫の三氏であった。ことに当時７０才の藤島さん、６２才の村尾さんにはもうビックリした。やる気になってやれば、あの年になってもあれだけやれるのか、山登りとは若い時だけの遊びではなかったのか、戦中・戦後の長いブランクはあるが、イッチョウオレもやってみるか、遠見の天幕でも三氏から凡俗の淵に沈むことの愚をコンコンとさとされ、山を降りる頃には僕の復山の決意も固まっていた」

（「あれから十年－復山記ならびに休山記」針葉樹会報復刊４７号）

「とにかく嬉しかったのは、これら若手の諸君が私どもロートルの参加を心から喜んでくれたこと。普通ではありませんよ、足手まといになる老人連をボッカまでして誰が喜んで登らせてくれますか。要はこれらの諸君が一橋の山岳部の歴史と伝統に愛着をもってくれるからでありますな。この若い人たちの気持にこたえてあげなくてはいけませんな。とにかく決心いたしました、４０の手習いを。おいおい身体をならして岩登りもやりますか、スズメ百まで踊りを忘れず、幸い名古屋在住の大橋君が御在所の岩場を案内してくれるという。大橋君忘れないで下さいよ。そう決心したら何となく世の中が明るくなってきましたな。三名人はじめ山本君、大橋君、中島君、そのほかの諸君に心から御礼申上げるとともに、今後ともよろしく御願いする次第である」

（「四十の手習い」針葉樹会報復刊１３号）

7 御在所藤内壁岩登り　＜90＞

湯の山ー藤内壁前尾根ー御在所岳ー湯の山

①　大橋、木村哲夫

木村君に紹介される。前尾根は手頃な岩場で実に楽しい一日であった。大橋君が次のように書いている。

「木村兄と前以っての打合せで、藤内壁でも技術的に問題はないが、楽しめるバラエティということで選んだ前尾根に向う。ラッシュ・アワーのため予想以上に時間を喰うも結構快調に飛ばす。年令に似合わない先輩の強引に登る姿を見て目頭が熱くなる。本当である。チムニー登攀など堂に入ったもので、昔とったキネヅカに敬意を表する」

（針葉樹会報復刊15号）

8 谷川岳マチガ沢　＜91＞

土合ーマチガ沢ー一の沢ー西黒尾根ー水上ー天神峠ー水上

②　須崎

チョッピリザイルを使って一の沢を登る。つまらぬところだが山登りを復活させる決心をした故かすべてが新鮮。

〃 針ノ木岳・蓮華岳　＜92＞

大町ー扇沢ーマヤクボー針ノ木岳ー峠ー蓮華岳ー北葛岳ー七倉岳ー七倉尾根ー大町

③　ひとり

針葉樹会報へのハガキの便り（復刊15号）

「針ノ木岳、蓮華岳、七倉岳。マヤクボを登って小スバリのコルへ出、以下表記の山々を歩きました。針ノ木の峠道からマヤクボの雪渓を登りはじめるとトタンに下から声あり、"オジサンそこは路じゃないよう"くさりましたな、路でないところは歩かぬ人ばかりの故か、マヤクボの上のお花畑は人一人いない静けさ、いゝ気持でした。但し針ノ木小屋は100人をこえる超満員、ふてくされて持参のブランデーを飲みすぎメシも食わずに寝ていると小屋主の百瀬の小母さんに発見され、俄然待遇が良くなり、翌日出発の時にカンビール2本貰う。テレビも時には役に立ちますな。蓮華以南は人影少なく悪くありません。七倉岳というのは実に見晴らしのよいところです。唐沢岳という山に登りたくなりました」

9 北岳バットレス　＜93＞

マイカーにて広河原ー大樺沢BCーバットレス第四尾根ー北岳ー草すべりーBCー広河原ーマイカーにて帰京

④ 天　近藤恒雄、藤島、村尾、山本、中島、倉知他

驚くべし70才の藤島さんが第三尾根を登るとおっしゃる。小生としては第四尾根といわざるをえないじゃないですか。

「しかしバットレスも変りました。その昔のバットレスといえばまず人っ子一人いない静けさ、ガスのあいまに見えかくれする岩峰が頗る威圧的な印象を与えたものですが、20数年ぶりのバットレスは、お天気のよかった故もあってかまことに明朗、各尾根に何パーティかがゾロゾロ取付きときには女の子の声もするというグレンデ気分、安心しました……ところがザイルをつけて登りはじめた一ピッチ目の取付きが何となく具合が悪い。モソモソしていたらストンと落ちました、30センチほど。これはイカンと頑張るとそれから上はたいしたことなく途

中チョッピリトップに立ちマッチ箱の第2コルへとのぼりつく。このあたりから天気はすっかり良くなり岩は乾いて何とも気持が良ろしい。コルの上のスラブに一寸てこずったがそれに続くマッチ箱の岩稜はステキですな。２０何年前根本と２人でやってきた時にはガスで何も見えぬし、若さにまかせてガサガサ登った記憶しかないが実に雰囲気の良いところです」

（「第四尾根」針葉樹会報復刊１６号）

10　笛吹川東沢（追悼碑建設予備調査）　＜94＞

前田、古沢、長沼3君の追悼碑建設の予備調査で東沢を釜ノ沢出会まで遡行

②　中川、久保、小林、中島、大賀二郎、佐藤之敏他

11　上高地滞在（西穂高岳）　＜95＞

島々－上高地ＢＨ－西穂高岳・中尾峠往復－島々

④　須崎

初冬の上高地は実に気分が良い。今度は観光気分をすてて西穂高の頂上まで行く。

12　三ッ峠岩登り　＜96＞

マイカーにて出発、途中一泊して岩壁に遊ぶ。

②　中島、佐藤(之)、佐藤久尚

1967　（47才）

1　棒ノ折山　＜97＞

飯能－河又－白谷沢－棒ノ折山－黒山－雨ノ沢山－大丹波－川井

①　須崎

4～5　針ノ木岳・唐松岳　＜98＞

大町滞在、針ノ木雪渓より針ノ木岳、八方尾根から唐松岳往復

④　ひとり

針ノ木岳南の肩からマヤクボへの大滑降（尻すべり）は実に快適。

6　葛葉川・塔ノ岳　＜99＞

大秦野－桜沢橋－葛葉川－三ノ塔－塔ノ岳－大倉－渋沢

①　ひとり

〃　谷川岳ヒツゴー沢　＜100＞

水上－谷川温泉－二俣－ヒツゴー沢－谷川岳－一の倉岳－中芝新道－土合

②　中島

ヒンズークシュ遠征隊を送り出したあとの慰労会を２人でやる。谷川温泉でしたたか飲んだ翌日、ヒツゴー沢へ。ロートルには手頃の楽しめる沢だ。

6　滝谷より北穂高岳　　＜101＞

島々ー新穂高ー槍平ー滝谷Cルンゼ左俣ー北穂高岳ー涸沢ー横尾ー上高地ー島々

④　　大塚、中島、平川紀男、倏昭

「あいにく滝谷に登る日は小雨とガスで、ツルムもドームも見えなかったが雄滝、雌滝、滑滝を次々に越えてゆく飛騨側からの登高は、上部の岩稜地帯しか知らぬ僕たちには新鮮で、悪天候もそれほど気にならなかった。中島君は気くばりの良い男だから途中ちょっぴり二人にアンザイレンさせてくれた。大塚さんと最後にザイルを組んだのが昭和15年6月のクラック尾根、戦争と戦後の長い星霜をへて再び滝谷でザイルを組む。本来なら深い感慨があるべき筈のところだが、僕たちはそれほどにも思わなかった。それが2人の戦後はじめての山ということさえ忘れていた。あまりに共通の思い出の多い滝谷が舞台では途中の年月がけし飛んで、昨日の今日のような気持だったのかもしれぬ」（「大塚さんとの四十六年」針葉樹会報復刊64号）

〃　十勝岳・美瑛岳　　＜102＞

白金温泉より往復

③　　ひとり

国立青年の家に仕事にいったついでに登る。美瑛岳の下りでクマザサのヤブに突入、いささか途方にくれたが、かすかな流れの音から沢を発見、沢ぞいに下って無事温泉に帰着。

8　ゼニイレ沢より白毛門山　　＜103＞

土合ーー一の倉沢出合ーゼニイレ沢ー白毛門山ー土合

①　　ひとり

沢自体は大したことはないがツメから稜線までのヤブこぎに悪戦苦闘する。

9　奥又白より前穂高・奥穂高岳　　＜104＞

上高地ー徳沢BCー奥又白池ー前穂高岳ー奥穂高岳ー穂高小舎ー涸沢岳ー涸沢ー横尾ー上高地

③　　藤島、中川、村尾、柿原謙一、小林、平川、吉田、他

針葉樹会懇親山行。池までのつもりがついさそわれて奥穂まで足を伸ばす。

〃　燕岳・大天井岳・常念岳　　＜105＞

有明ー中房ー燕岳ー大天井岳ー常念岳ー蝶ヶ岳ー横尾ー徳沢ー上高地ー島々

⑤　　須崎

燕から北鎌尾根の展望を期待していたがガス、残念。常念小屋で雨、小舎番に「凍死するぞ!!」と脅されたがそのまま下山する気にもならず雨の常念ごえ。横尾への下りでは全身ぬれネズミとなる。

10　笛吹川東沢（追悼碑除幕式）　　＜106＞

東沢・釜沢出合附近に前田たちの追悼碑完成、除幕式を行う。

②　　中川、根本、久保、林、小林、佐野、細野、中島、他

中島君の労を多とする。

〃　雁坂峠　　＜107＞

広瀬ー雁坂峠ー川又ー三峰口

①　　中川

はじめての孫さんとの2人旅、雁坂峠からの富士山は評判どおりに良い。

10　五色沼・磐梯山　　<108>

国立青年の家に仕事、ついでに磐梯山肩まで

②　　須崎

12　木曽駒ヶ岳・宝剣岳　　<109>

大町－駒ケ根－しらび平－千畳敷小舎ＢＨ－宝剣岳・木曽駒ヶ岳往復－駒ヶ根

⑤　　倉知

当時失業中の倉知君をつれて大町へ。鹿島国際でスキーをしているうちに千畳敷にロープウェイが出来たことを思い出し、突如として駒ケ根へ。朝大町を発ってその日のうちに宝剣岳の頂上を踏めるという便利さに感心する。但しこの日はガス多く展望なし。翌日大快晴となったのでもう一度駒ヶ岳に登り直す。冬の3000メートル峰に登れたことで大満足。

1968　（48才）

1　馬頭刈尾根　　<110>

御岳－御岳山－大岳小屋－つづら岩－馬頭刈山－光明山－軍道－五日市

①　　須崎

かつて石川と登ったなつかしのルート。素晴らしい快晴に、ノンビリしすぎたため光明山で真暗となる。

2　御在所岳・藤内沢　　<111>

湯の山－藤内沢－御在所岳－湯の山

①　　小林、大橋、木村

冬の藤内沢は意外に楽しめるところだ。

3　三笠山・志賀坂峠（ドライブ登山）　　<112>

マイカーにて浜平温泉－三笠山（諏訪山がパッとしないので引返す）－志賀坂峠－秩父（柿原家訪問）－マイカーにて帰京

②　　大賀二郎、中島、倉知

秩父では柿原和夫君に案内される。後年、彼とあんなに山に登るようになるとは予想もしなかった。

4～5　大町滞在　　<113>

一橋山岳部員中村慎一郎君鹿島槍天狗尾根下降中転落死、事後処理に当る

⑦　　大橋、木村、針葉樹会員、山岳部員多数

これを機縁として故人の姉と中島寛君結婚。小生媒妁人、人間の縁というのは不思議なものだ。

6 徳沢小舎滞在 <114>

上高地－徳沢－涸沢－ザイテングラード途中まで－徳沢－上高地－島々

④ 須崎

天候悪くどこにも登れず、わずかに晴れた一日涸沢に遊ぶ。

7 巳ノ戸林道 <115>

奥多摩－日原－巳ノ戸林道－浅間尾根－小河内ヘルスセンター－奥多摩

① 石弘光、久保（途中まで）

8 五色ヶ原（友田純一君追悼登山） <116>

富山－室堂－一の越－ザラ峠－五色ヶ原－薬参－平－黒部湖－ダム－大町

③ 中川、大塚、宮城、佐藤(政)、根本、斉藤、佐野
松下、小林、伊藤、竹中、他2世6人

当時のよせ書から――（針葉樹会報復刊23号）

「四十数年の山行を通じて、今度の友田慰霊碑追悼山行ほど楽しい山旅はなかった」(中川)

「一の越で19人集ったときは一寸した感激でした。こうして山の中で顔をみるのが一番ですね」（大塚）

「こんな愉快で感激的な経験は始めてでした」（宮城）

「年が何処かに行ってしまったのでしょう。フーフー言いながら口だけは現役の時と完く変らないお互」（根本）

「20何年ぶりで会っても一向にその間の時間を感じさせないのは山というもののせいでしょうか」（斉藤）

「思いがけぬことの多かった中で、五色ヶ原の静けさ、清らかさ、やさしさは26年前の建碑の頃そのままのものでした」（松下）

9 清水峠から蓬峠へ <117>

六日町－清水－(夜中大雨、巻機山米子沢をあきらめる)－謙信尾根－清水峠－七ツ小屋山－蓬峠－土樽

② 中川、中島

中川孫さんの一文から

「夕食が終って酒になった。山田持参のブランデーを空にして尚足らず、次から次へと地酒の徳利がならんだ。話題はナント、中村君の遭難で知合になった彼の姉を嫁さんにもらえという山田の口説である……俺も両親から頼まれたし、ホントに良縁だと思うと繰返す。窓外の雨は一向に熄みそうもなく、室内の説得は延々と続く。夜は段々と更け、徳利は更に数を増したが肝腎の花婿候補はイエスともノーとも云わない。十二時近く寝についた（この結末は山田媒妁人で終曲となる）」（中川「雨巻機」針葉樹会報復刊27号）

〃 **槍平より槍ヶ岳・天狗原・大滝山・蝶ヶ岳** <118>

松本－栃尾－槍平－槍ヶ岳－中岳－南岳－天狗原－槍沢－徳沢－大滝山－蝶ヶ岳－上高地－島々

⑤ 須崎

槍で大快晴となり素晴らしい雲海をみる。天狗原は実に気持の良いところだ。

10 岩木山 <119>

弘前で仕事、ついでにドライブ・ロープウェイ登山

①　他に2人

〃 **三頭山** <120>

五日市ー数馬ー鞘口峠ー三頭山ー奥多摩湖ー奥多摩

①　久保

〃 **巻機山米子沢** <121>

六日町ー清水ー米子沢ー巻機小舎ー清水ー六日町

②　中島

9月のやり直し。米子沢は実に良い沢だ。紅葉にはいささか遅く、上部は新雪。

11 木曽御岳山 <122>

飛騨小坂ー濁河温泉ー摩利支天ー御岳山ー田ノ原ー木曽福島

③　大橋、木村

強風快晴、素晴らしい初冬の山を心ゆくまで楽しむ。北西遙かに白山の堂々たる山容を眺め、来年は是非登ろうと約束する。

12 御前山 <123>

奥多摩ーダムー大ブナ尾根ー御前山ー栃寄ー奥多摩

①　石

1969　（49才）

1 天城峠・八丁池 <124>

湯ヶ島ー天城峠ー八丁池ー湯ヶ島

①　山田浩司

〃 **五郎山・天狗山・飯盛山** <125>

信濃川上ー梓山滞在（五郎山・天狗山）ー清里ー飯盛山ー甲府

④　須崎

梓山は実に寒いところだ。五郎山は頂上に達せず、帰りがけのダチンに飯盛山を稼ぐ。

2 由布岳 <126>

大分で仕事。ついでに由布岳に案内される。頂度新雪あり、双耳峰の素晴らしく格好の良い山である。

①　日本山岳会大分支部員多数

2 那須北温泉 <127>

三本槍の予定が雪、スキーを楽しむ。

②　　中島、佐藤(之)

3 那須北温泉 <128>

温泉が熱すぎるので窓の外の雪をスコップで浴槽にたたき込む、豪快!!

③　　須崎

〃 神城・鹿島国際スキー <129>

斜葉樹会懇親スキー行

④　　山本健一郎、他

4 柳沢峠より大菩薩・黒岳 <130>

塩山－柳沢峠－丸川峠－大菩薩嶺－峠－上白川峠－石丸峠－小金沢山－黒岳－湯ノ沢峠－初鹿野

②　　ひとり

山麓は桜が満開、多くの花々が咲き乱れ、色彩が実に美しい。長ベエ小舎に一泊。

4～5 針ノ木岳・爺ヶ岳 <131>

大町滞在、マヤクボより針ノ木岳、南尾根より爺ヶ岳・長ザク下降

⑤　　(前半)ひとり　(後半)大橋、木村

針ノ木岳肩からマヤクボへの尻滑りは痛快。

6 黒斑山・浅間山 <132>

小諸－車坂峠－黒斑山－湯ノ平高原－小諸－峰の茶屋－浅間山－石尊山－追分

③　　須崎

国鉄ストで小諸までタクシーでゆく。山は快晴。

〃 真名井沢 <133>

川井－大丹波－真名井沢－赤久奈尾根－古里

①　　ひとり

〃 平標山 <134>

越後湯沢－元橋－平標山往復－湯沢

①　　白百合女子大学ワンダーフォーゲル部員多数

はじめてワンゲルの連中と同行。意外に良い山であった。

7 栄太郎峠・大峰 <135>

越後湯沢－八木沢－清津川－栄太郎峠－大峰－湯沢

①　　ひとり

苗場山を予定していたが雨。カサをさして歩く。

7 苗 場 山 <136>

越後湯沢－八木沢－和田小舎－苗場山往復－湯沢

①　ひとり

前回のやり直し。この2回ともに仕事で湯沢方面にいったついでに登る"ついで"登山。

8 白馬岳より唐松岳・八方尾根 <137>

平岩－蓮華温泉－白馬大池－白馬岳－白馬鑓ヶ岳－天狗池－不帰－唐松岳－八方尾根－白馬

⑤　日江井、小林、松下、原田豊、佐藤(久)、平川、叶芳和

この年集中豪雨で山は大荒れ(葛温泉の流された年)、予定の剱を変更して稜線を歩く。昔の仲間が集って楽しい旅であった。

9 本仁田山 <138>

奥多摩－安寺沢－本仁田山－鳩ノ巣

①　ひとり

〃 瑞がき山・三国峠 <139>

マイカーにてみずかき山荘－富士見平－みずかき山往復－山荘－信州峠－馬越峠－三国峠－中津川－秩父－帰京

②　中川、柿原、久保、原田、大賀　他多数

針葉樹会懇親山行。マイカー3台を連ねて機動性を発揮する。

10 白山・恵那山 <140>

名古屋よりマイカーで大白河村平瀬－大白河ダム－白山御前峰往復－中津川－黒井沢－恵那山往復－名古屋

③　大橋、木村、大賀

紅葉と新雪の白山は素晴らしい。頂上がガスだったのが残念。帰りがけのダチンに恵那山を稼ぐがこれは蛇足だったかもしれぬ。

「昨日白山、今日恵那山、はしご酒ならぬはしご山のようでどうしても印象が分散される。白山から別山へと続く稜線や加賀平野にむかってひろがる高原地帯を歩いてみたいし、恵那山でなら頂上をこえて神坂峠へでるのが本道であろう。2日で2つの名山に登った嬉しさはそれとして山はもっとノンビリ歩くべきである」(「紅葉の白い山」針葉樹会報復刊26号)

11 尾瀬沼・会津駒ヶ岳 <141>

沼田－戸倉－三平峠－尾瀬沼－沼山峠－檜枝岐－会津駒ヶ岳往復－駒止峠－会津若松

④　須崎

「何年か前の11月、尾瀬沼から沼山峠をこえて檜枝岐に出たが峠の下り道を一面にうめたカラマツの落葉はまことに美しくその上を踏んでゆくのが悪いような気さえした……紅葉の終ったあとの落葉の旅も悪くない」(「四季の山々」白百合女子大学報17号 1974. 3)

12 両 神 山 <142>

西武秩父－納宮－奈良屋沢峠－日向大谷－両神山－八丁峠－日窒鉱山－三峰口

②　鶴田俊正、叶、三浦

両神から八頂峠まで意外に時間がかかり、日窒鉱山ではマックラ、トラックをつかまえて、三峰口に出る。

12 鹿島国際スキー <143>

大町に滞在、スキー場に2日ほど通う

②　　ひとり

1970　（50才）

1 山伏岳・八紘嶺・安部峠 <144>

静岡－梅ケ島温泉滞在－八紘嶺・山伏岳往復－安部峠－身延

④　　須崎

八紘嶺からの笊ヶ岳は実に魅力的だ。山伏岳の頂上附近や安部峠も、実に気持の良いところであった。

1 ニセコアンヌプリスキー <145>

札幌で仕事、ついでにスキー

③　　他に3名

スキー場の驚くべき変貌ぶりに感嘆する。天候悪くスキーは快適ならず。

2 雲取山 <146>

奥多摩－三條ノ湯－雲取山－七ツ石山－浅間尾根－奥－小河内バスセンター－奥多摩

②　　鶴田

このポピュラーな山にはじめて登る。

3 後陣山（鉄砲木ノ頭） <147>

ドライブ登山

①　　竹中一雄、鶴田

〃 **鎌ヶ岳** <148>

湯の山－三ツ口谷－鎌ヶ岳－長石谷－湯の山

①　　加藤正巳、大橋、木村

5 蓮華岳 <149>

大町滞在、針ノ木峠より往復

④　　大橋、木村

〃 **開聞岳** <150>

鹿児島で仕事、ついでに登る

①　　ひとり

山腹をぐるりとひと巡りすると頂上という面白い山。すぐ下にあるシャボテン公園のレコードが頂上までガンガン聞えるのには閉口。

5 安達太良山 <151>

二本松ー湯川渓谷ーくろがね小舎ー安達太良山ー鉄山ー箕輪山ー土湯峠ー福島

②　　中川、冠木伊右エ門

「中川、冠木両先輩のお伴をした5月の安達太良山。ムラサキヤシオとアズマシャクナゲの咲き乱れる湯川渓谷の美しさ。安達太良山から鉄山を越え、箕輪山、土湯峠にいたる庭園のような山稜。終日ぬけるような快晴で、雪白い飯豊の山々を遠望しつつ歩いた二日の山旅の思い出は、これまた忘れ難い」（「日本百名山」針葉樹会報復刊28号）

6 姥湯より家形・一切経・東吾妻山 <152>

福島ー五色温泉ー姥湯ー兵子ー家形山ー五色沼ー一切経山ー鎌沼ー東吾妻山ー景馬平ー浮上平ー福島

②　　鶴田夫妻、高橋明子、辻フミ子、他一名

野天風呂とランプの宿、姥湯の良さを教えられたのは前回同行した冠木さんからであった。「その冠木さんに吾妻山麓の姥湯を教えられ、早速3人の女性をつれて出かけた。姥湯から兵子、家形山、五色沼、一切経山、鎌沼、東吾妻山、景場平と歩いたこの一日も稀にみる快晴。移り変る風景の美しさとけんらんたる色彩、この旅がどんなに良かったかは、同行した3人の女性が全部山好きになり、その後東北朝日や妙高など、僕と屢々一緒に出かけ、これからも出かけることになっている事実が証明する」（前掲「日本百名山」）

〃 岩手山・八幡平 <153>

盛岡ー網張温泉ー岩手山往復ー盛岡ー八幡平ー藤七温泉ーモッコ岳ー盛山

④　　須崎

「緑といえば思い出すのが東北の岩手山である。春には遅い6月であったが緯度が高いという関係もあってか、あれほど見事な新緑をみたのは僕の狭い経験でははじめてであった。素晴らしい大快晴の一日、それだけ色彩があざやかにみえる。緑につつまれた御釜、御苗代という二つの山上湖の美しさ、この時のカラー写真は僕のアルバムのなかでも異彩をはなっている」（前掲「四季の山々」）

7 大鳥池より朝日連峰 <154>

鶴岡ー大鳥池ー以東岳ー竜門岳ー大朝日岳ー小朝日岳ー島原山ー山形

④　　鶴田夫妻、高橋、辻

「大鳥池から以東岳に登る斜面で、ニッコウキスゲ、ハクサンシャクナゲ、チングルマ、マツムシソウ、ハクサンフウロなど、僕の乏しい知識では若干季節的にズレのある筈の花々が一斉に咲き誇っていた。あれほど美しい斜面にはその後お目にかかっていない（前掲「四季の山山」）「夏の朝日の花の美事さに感嘆した僕に、狐穴小舎の番人は、夏の朝日なんてメじゃない秋の紅葉の朝日をごらんなさいといった。再遊を期さねばならぬではないか」（前掲「日本百名山」）

7 鳥 海 山 <155>

鶴岡－二ノ滝－千畳敷－鳥の海－鳥海山－湯ノ台－鶴岡

②　　鶴田

「だがそれにもまして鳥海という山に僕はほれ込んだ。登ったコースが良かったこともある。二ノ滝から登って湯ノ台に下る僕たちのコースこそ鳥海を真に味う最良のものだと思う。その二ノ滝口を教えて下さったのは村尾さんである。さすが大ベテランの指示に間違いはない。渓谷あり高原あり山上湖あり、頗る変化に富むだけでなく、千畳敷といわれるその高原の雄大さ、美しさ、おそらく鳥海一であろう。湯ノ台への下山路は高山植物の宝庫である。朝日も花の山だが鳥海山はそれ以上で、河原宿あたりのニッコウキスゲの大群落など、あれほど見事なのはみたことがない。鳥海だけはもう一度行くとしてもやっぱり花の季節に訪れてみたい」（前掲「日本百名山」）

8 鏡平より雲ノ平、水晶岳 <156>

新穂高－鏡平－双六池－三俣蓮華小舎－雲ノ平－水晶岳－野口五郎岳－ブナ立尾根－大町

⑤　　中川、大塚、日江井父子、小林、石

古い仲間との思い出山行。この時同行した日江井歌子君が後に柿原和夫夫人になるとは想像もしなかった。

9 荒 沢 岳 <157>

小出－銀山湖－荒沢岳往復－小出

②　　中川、日江井、倉知

頂上はガスで何も見えず残念。

〃 雨飾山・天狗原山 <158>

大町－小谷温泉－雨飾山－金山－天狗原山－小谷温泉

③　　ひとり

雨飾山頂直下の草原でツェルトをかぶってゴロ寝。夜中寒く眼がさめる度にパイーやっていたら遂にボトル一本が空になる。翌日はフツカヨイ気味で、金山までの長い尾根歩きに悪戦苦斗、尾根筋だのに水が豊富で助かる。

10 笹ヶ峰・妙高山 <159>

妙高々原－笹ヶ峰－黒沢池－高谷池往復－妙高山－妙高々原

②　　鶴田夫妻、高橋、辻真壁、叶ヤツ子

高谷池では一面のガスであれほど素晴らしいところとは気がつかなかった。妙高越えは晴。

11 武 尊 山 <160>

水上－上野原－避難小舎－沖武尊－前武尊－花咲－沼田

②　　中島

避難小舎に一泊したおかげで楽にトレースする。１１月の連休というのに、たった２人の山であった。

11 茶臼岳・朝日岳 <161>

北温泉に滞在、ロープウェイで茶臼、峰ノ茶屋から朝日を往復

③ 須崎

12 雲 取 山 <162>

奥多摩ー三條ノ湯ー雲取山ー白岩山ー三峰神社ー三峰口

② 鶴田、叶

飛竜に行くつもりが途中で方向転換。

〃 鹿島国際スキー <163>

大町滞在、タクシーでスキー場通い

② ひとり

<Ⅲ>

1971　（51才）

1 鼻曲山 <164>

横川－霧積温泉－鼻曲山－軽井沢

②　須崎

2 日光雲竜渓谷 <165>

日光－雲竜渓谷友知ラズの滝まで往復－日光

②　中島、佐藤(久)、他1名

氷壁は評判ほどではなく失望する。

3 四阿山（小四阿山まで） <166>

菅平より小四阿山まで往復

③　中島、倉知

「先行した倉知君と僕を追って、その夜菅平白樺荘にあらわるべき彼（中島）が、まてどくらせどやってこない。やむなく翌早朝倉知君と2人で出発。小四阿山をこえたところで熊にあい、一も二もなく退却した。熊であって断じてカモシカではない。だが熊であっても、中島君がもし一緒にいてくれたら、あれほど簡単に退却したかどうか。彼ならまず熊に見劣りしないし、万一の場合は、中島君が熊と格斗中に僕らがサッと逃げだすという手もある」（「登りましたよ四阿山」針葉樹会報復刊44号）

〃 **大岳山・鋸山** <167>

御岳－御岳山－大岳山－鋸山－鋸尾根－奥多摩

①　須崎

4 蓼科山 <168>

茅野－滝ノ湯－蓼科山－牧場－白樺湖－茅野

②　須崎

〃 **高尾山・景信山** <169>

高尾山口－高尾山－小仏峠－景信山－高尾

①　ひとり

4～5 針ノ木峠・爺ヶ岳南尾根・小熊山 <170>

大町滞在、エコノミスト村からピストンで出かける

⑤　大橋、木村、中島、鶴田、高橋、辻真壁

蓮華と爺は強風とガスで頂上に達せず。小熊山の山稜は格好の山岳展望台である。

5 天城山（万二郎・万三郎） ＜171＞

伊東－万二郎岳－万三郎岳－八丁池－天城峠－修善寺

②天 須崎

万二郎と万三郎の間でツェルト・ビバーク。夜中小雨、久しぶりに野外に寝て昔の天幕生活をなつかしく思い出す。

〃 **皇海山** ＜172＞

通洞－銀山平－庚申山荘－庚申山－鋸山－皇海山往復－六林班峠－山荘－銀山平－通洞

③ 中川、中島

「皇海山は長丁場にすぎるということから孫さんは半分あきらめていたらしい。それが中島シェルパが参加してくれたおかげで頗る快調に登頂。頂上での孫さんは本当に嬉しそうだった。その皇海山でこれまでオリンパス・ペンＥＥ専用の孫さんが見なれぬ高級カメラを手にしておられる。〝女房がネ、７０才のお祝いに買ってくれたんだよ〟孫さんのはにかんだような表情をはじめてみた」（「孫さんとの山」針葉樹会報復刊３４号）

6 伊吹山 ＜173＞

名古屋からのマイカーで頂上まで、山下りののち又マイカーで名古屋へ

① 木村

木村君の送迎をうける。親切が身にしみる。有難いことだ。

〃 **十文字峠** ＜174＞

信濃川上－梓山－十文字峠－栃本－三峰口

② 中川

しゃくなげ見物に出かけたが期待は裏切られず、満開の花々に驚嘆したがそのあとがイケなかった。次のとおり。

「峠のしゃくなげは実に見事なもの、あれほどの大群落はかつてみたこともないが、その花の香りに酔いしれた故か峠を下ってしばらくの桟道で谷側に転落、右脇腹をイヤというほど強打しました。それから栃本までのキツかったこと、栃本からのタクシーが右に左にカーブを切るたびにゾクゾクと痛みがハイあがる。家にたどりついた時には背中の軽いリュックが自分でおろせぬというあわれな状態。結局ロッ骨３本骨折ということで生れてはじめて病院なるものに入院しました。花の十文字ならぬ骨の十文字というわけでまことにオソマツな次第でした」（「骨の十文字峠」針葉樹会報復刊３１号）

9 穂高岳（奥穂南稜） ＜175＞

上高地－岳沢ＢＣ－奥穂南稜－奥穂高岳－前穂高岳－ＢＣ－上高地

④天 倉知、大

６月の天城山で味をしめ、プラスチック・ポール、カマボコ型の２～３人用軽テントを買う。天幕による山行の再開第一歩。

もっともロッ骨々折後最初の山行に上半身を使うルートを選んだのは少々どうかしていた。そのむくいはテキメン、次の如し。

「傾斜が意外に急で、高度感にトミに弱くなっている小生、ムヤミに腕に力をいれて岩にしがみつく。おかげで翌日、上半身が筋無力的症状におちいり、両君に大変迷惑をかけました。

その後も脇腹や背中の具合がどうにも悪く、結局今年の山はスッパリあきらめることにしました」（「骨の十文字峠」針葉樹会報復刊３１号）

もっとも奥穂南稜はロートルには手頃の面白いルートである。大君が次のように書いている。

「ウェストンが奥穂に登るのに使い、更にウェストン夫人も登ったルートだと言うので軽い気持のところが、すぐハング気味の岩登りにも出合い面喰らう。ザイルを出して登るなんてそれこそ卒業以来で、自分の結び方は覚えていたが、ミッテルマン結びを忘れてしまい山田さんにはワッパを一つだけ作って巻きつけてしまい、俺が落ちたら腹が締って死ぬ所だったなどといわれる始末である。倉知の動物的カンでヤブの中のトレースを見つけ、木登りよろしく腕力登攀でトリコニーの上に出る。結構ナイフリッジやチムニーがあり、高度感があってウェストン夫人の業績に感心する」（大　建二郎　「秋の奥穂高南稜」針葉樹会報復刊３１号）

11　富士山（日本山岳会講習会）　＜176＞

ハイウェイ五合目ー御庭小舎ーツバクロ沢ー吉田口五合目ー富士吉田

③　中島、倉知　他多数

はじめて講習会なるものを見学する。中島、倉知君たちのリッパな先生ぶりに感心、帰りはひとりで久方ぶりに裾野を歩く。

12　大野山（中川孫一氏捜査）　＜177＞

新松田から大野山往復

①　他に多数

中川孫さんが大野山に登ったあと行方不明になった。後日近道をしようとして道を失いザワン沢上部をトラバース中転落、死亡せることが明らかになったが、この時期は全く五里霧中であった。

1972　（52才）

1　大　山　＜178＞

伊勢原ー大山ケーブルー下社ー大山ー見晴台ー下社ー伊勢原

①　須崎

2　家形山・一切経山（スキー登山）　＜179＞

ＫＯ吾妻小舎に滞在　五色沼から家形・一切経往復

③　中島、倉知

「戦後はスキー用具が妙な具合に発展して、下り専門のスキーだからカカトが上らない。カカトが上らなくては山に登れない。おかげで山はいたって閑散としている。三年ほど前、ＫＯ吾妻小舎を拝借して家形山と一切経山に登った。休日の快晴というのに山には僕たちの仲間だけ、もったいないなあと話しあったものだ」（前掲「四季の山々」）

2 矢倉岳 <180>

新松田－足柄峠－矢倉岳－山北

①　須崎、武内公夫、三恵

3 屏風岩山（中川氏捜索） <181>

大滝橋－大滝峠－屏風岩山－二本杉峠－中川温泉

①　倉知、加藤

〃 **苗場山**（スキー登山） <182>

和田小舎滞在－神楽峰（N、Kは苗場山頂へ）往復

③　中島、倉知

4 荒島岳 <183>

名古屋よりマイカーで九頭竜湖へ、荒島岳往復

②　大橋、木村

前日の雪で樹氷が何といえず美しい。荒島岳は良い山だが頂上にＴＶ中継用の建物のあるのは幻滅。

〃 **黒百合平** <184>

渋温泉に泊って天狗岳を目指すが雪で黒百合平まで

③　須崎

5 内蔵助平 <185>

黒四ダム－平蔵助平ＢＣ－真砂尾根（途中まで）・内蔵助谷トレース－黒四ダム

④ 天　加藤　他多数

針葉樹会・山岳部懇親山行

「ＯＢ７名、学生８名が参加し、立山や剱岳に登り、大雪原生活を堪能できたなど、参加者からは一応の合格点を戴けたものと思っている」（加藤正巳「五月の内蔵助平」針葉樹会報復刊３３号）

〃 **針ノ木岳** <186>

大町滞在　マヤクボより往復

①　武内夫妻

山には全く素人の２人をとにかく頂上までつれて行く。無風快晴の一日、肩からの尻滑りは実に快適、但し２人は悪戦苦斗。

〃 **高妻山** <187>

長野－戸隠牧場－一不動－高妻山往復－牧場－長野

②　倉知、大

一不動からみた高妻は、実にスッキリした良い山だ。

6 黒沢池・高谷池 <188>

妙高々原ー笹ケ峰ー黒沢池ー高谷池ー笹ケ峰ー妙高々原

△2 天 ひとり

火打を目指してたが雨とガス。黒沢池附近でツェルト・ビバーク。高谷池附近でツェルト・ビバーク。高谷池は2回目だが今回もガスで何もみえず。下りは雪で道を失い、いささかあわてる。

〃 角間山・湯の丸山 <189>

1日鹿沢温泉に滞在、角間と湯の丸に登る

△4 須崎

つつじ見物。コンコン平のあたりは満開にすぎて少々毒々しい。

7 後方羊蹄山 <190>

マツカリー後方羊蹄山ー半月湖ー札幌

△1 大塚、斉藤正

これが大塚との最後の山となった。後に次のように書いた。

「頂上で斉藤君にとって貰った写真をみると、二人は実に嬉しそうに笑っている。その笑顔が当然なほど結構な山であったが今から考えると心残りがないではない。大塚さんに対する僕の唯一の不満は彼が酒を飲まぬ(飲めぬ)こと、従って酒飲みの心理に全く無理解なことであった。あの日も一日の快適な登山が終ったというのに、札幌に帰るとそのまま素気なく駅でハイサヨナラ、僕は狭いホテルの一室で一人わびしく売店で買った安酒で登頂の祝杯をあげるという始末。二人の最後の山のフィナーレとしてはいささか冴えない場面であった。もっとも、彼が日銀新潟支店長の頃、古風なたたずまいの支店長庁舎に泊り込み、ナベ茶屋という有名な料亭でさんざん飲ませて貰ったこともあるからあんまり文句もいえないが」(「大塚さんとの46年」針葉樹会報64号)

8 飯豊連峰 <191>

新発田ー湯ノ平ーオウイン尾根ー北股岳ー御西岳ー大　岳ー飯豊山ー三国山ー川又ー喜多方

△6 天 柿原和夫、那須美智、河内リエ子、叶、高橋、辻

期待が大きすぎた故かいささか失望。山はたしかに奥深いが南北アルプスにくらべてスケールは少さい。花も鳥海や朝日の方が良かったように思う。しかし久しぶりの天幕の旅は楽しかった。

〃 早池峰山 <192>

盛岡ー岳ー河原坊ー早池峰山ー小田越ー又一の滝ー遠野ー北上ー夏油温泉ー経塚山登山口ー北上

△3 天 ひとり

ハヤチネウスユキソウを求めてツェルトをもって一人でかける。花は期待どおり。自動車を乗りついで夏油まで入ったが登山口で小雨、ムリはよそうと経塚、焼石をあきらめる。

〃 燕　岳 <193>

中房より燕山荘往復

②　　日江井父子、山崎拡、原田、宮城

燕山荘で天候悪化、ガキ岳行をあきらめる。

9　北葛沢・爺ケ岳　　<194>

大町滞在　北葛沢の試登と爺ヶ岳の日帰り登山

④　　（前半）倉知　（後半）ひとり

何の目的もなくフラフラと大町へ。北葛沢はかなり悪く、三ッ道具がないと登れない。アッサリ退却。

〃　乾徳山　　<195>

塩山ー徳和ー乾徳山往復ー塩山

①　　宮下武平

10　火打山・焼山・天狗原山　　<196>

妙高々原ー笹ヶ峰ー黒沢池ー高谷池ー火打山ー焼山ー富士見峠ー金山ー天狗原山ー小谷温泉ー大町

③ ㊎　　柿原父子、那須

「胸のすくような紅葉の旅として思い出されるのは二年前の１０月はじめの火打山である。笹ヶ峰から入って黒沢池で幕営。翌日火打山・焼山をこえて富士見峠で幕営。次の日天狗原山を小谷温泉に下った。笹ヶ峰の紅葉も素晴らしかったが、天狗原の下りのブナの黄葉が何ともうなるほどの見事さで、あらためて日本の秋の山の美しさに感嘆した」（前掲「四季の山々」）

〃　岩菅山・草津白根山　　<197>

マイカーで志賀一の瀬へ、岩菅山・横手山・赤石山・東館山に登り帰途草津白根に寄る

④　　須崎、武内夫妻

ドライブの旅、はじめて志賀高原を訪れる。快晴続きで山々が美しい。

〃　上日川峠　　<198>

嵯峨駅温泉にて針葉樹会大コンパ

②　　針葉樹会員多数

11　能郷白山　　<199>

マイカーで能郷へ、頂上往復

②　　木村、花井マリ子、川崎千代子

登山道をおおうヤブをかきわけかきわけ頂上へ。すごいガスで、どんな山に登ったのかサッパリわからぬ。

〃　秩父御岳山　　<200>

三峰口ー落合ー御岳山ー強石ー三峰口

①　　須崎、武内、宮下

12 父不見山・東西御荷鉾山 ＜201＞

皆野－長久保－父不見山－杉ノ峠－万場－西御荷鉾山－東御荷鉾山－法久－鬼石

②　（前半）柿原(和)、那須、河内　（後半）その他大勢

父不見山は登路のハッキリしない山。道のない針面をガサゴソ歩いていたら稜線に出た。

〃 **釈迦ヶ岳**（鈴鹿） ＜202＞

湯の山－流れ谷－釈迦ヶ岳－松尾々根－湯の山

①　木村

名古屋から木村君のマイカーで湯の山へ。流れ谷は意外に面白い。

〃 **鹿島国際スキー** ＜203＞

大町滞在、タクシーでスキー場へ

①　須崎、武内

M・S・のスキーはじめ。

1973　（53才）

1 十 枚 山 ＜204＞

静岡－関ノ沢－十枚峠－十枚山－成島－内船

②（天）　柿原(和)、那須

天幕をもって出かけたが途中の無人小舎に一泊。頂上は雪で何も見えず。

〃 **矢 筈 山** ＜205＞

マイカーにて熱海から山麓へ、頂上往復

②　須崎、武内夫妻

小さくて可愛くて面白い山。

2 春岳沢・大山川 ＜206＞

大秦野－篭毛－春岳沢－大山－大山川－下社－伊勢原

①　那須

〃 **志賀高原スキー** ＜207＞

一の瀬に滞在、各ゲレンデに遊ぶ

⑤　須崎、武内夫妻

はじめて志賀のスキーを楽しむ。快適なり。

〃 **菅平スキー** ＜208＞

③　針葉樹会員多数

天候悪く四阿山には出かけられず。

3 浅草岳（未登） ＜209＞

大白河ー五味沢（滞在）ー峠ー大白河

④ 久保、甘利、那須

五味沢でドカ雪。酒ばかり飲む。帰りは峠のラッセルに大苦労。

〃 **入笠山** ＜210＞

マイカーにてすゞらん小舎調査

② 甘利、松田、高橋

4 御岳山 ＜211＞

飛騨小坂ー濁河温泉ー草木谷ー摩利支天ー御岳山ー八海山ー大曽福島

② 柿原父子、木村、花井、那須、河内

無風快晴の春山を満喫する。以下柿原(謙)氏の文章より。

「摩利支天山にむかう。いよいよ春や雪稜漫歩の醍醐味が楽しめる。登るにつれて穂高、槍、笠そして乗鞍岳が北方にあらわれる。日本の3000米級の山はこれで出そろったことになる……ここから御岳の一等三角点までの一時間余は、ただ広い白雪の尾根をゆっくり楽しみつつ歩く。春山の気分を満喫するにこれにしくはない。左手には木曽駒の勇姿がそそり立ち、かなたに富士の頂もあざやかであった」（「4月の御岳山」針葉樹会報復刊37号）

〃 **浅草岳**（未登） ＜212＞

大白河ー五味沢ー大白河

② 山本、久保、那須

前回は大雪、今回は大雨。浅草岳はどうもついていない。

4～5 針ノ木岳・爺ケ岳 ＜213＞

大町滞在、マヤクボより針ノ木岳、南尾根より爺ヶ岳2回

⑦ 山崎、柿原父子、木村、川崎

お客さまが次から次へ来るので爺ヶ岳に2回登る。

5 大山川 ＜214＞

伊勢原ー下社ー大山川ー大山ー篦毛ー伊勢原

① 久保、那須

6 蓬峠 ＜215＞

土合ー湯檜曽川ー白樺尾根ー蓬峠ー土樽

① 白百合ワンゲル多数

〃 **三方崩山** ＜216＞

名古屋よりマイカーで大白河村平瀬へ、三方崩山往復

② 木村、花井

6 八甲田山 <217>

酸ヶ湯に滞在、八甲田大岳、井戸岳、赤倉岳、毛無岱に登り、城ヶ倉渓谷に遊ぶ

④ 須崎

7 釜無山 <218>

富士見ーすずらん小舎ー釜無山往復ー青柳

② ひとり

〃 **燕　岳** <219>

頂上北方のコマクサ群落地帯でビバーク　翌日天候崩れ引返す

② 天 柿原(和)

8 祖父平生活 <220>

新穂高ー大ノマ乗越ー弓折岳ー双六池ー黒部川源流ー祖父平ＢＣー五郎沢より黒部五郎岳ー祖父沢ー雲ノ平ー双六池ー鏡平ーわさび平ー新穂高

⑨ 天 柿原(和)、河内

オイル・ショック以前の、林道を車で自由に走れた頃は、大町を朝早く発つと、弓折岳の雪田のほとりで水割りを飲みながら、暮れなずむ滝谷を眺められた。祖父平に居ついてからは雨続きで、源流の沢を登り尽くす計画はさっぱり捗らず。小康時に五郎沢をつめて、アルコールを補給したのが唯一の成果。祖父沢経由、雨の中を下山した。（柿原和夫）

9 魚沼駒ケ岳 <221>

小出ー枝折峠ー駒ヶ岳ー小倉山ー駒の湯ー小出

② 天 小林

〃 **富士山** <222>

5合目までドライブ後四合附近で幕営　翌日頂上へ

② 天 須崎、武内夫妻

〃 **秋田駒ケ岳・乳頭山** <223>

田沢湖ー秋田駒ヶ岳ー湯ノ森山ー笊森山ー乳頭山ー田代平ー黒湯ー乳頭山ー千沼ヶ原ー三角山ー高倉山ー玄武温泉

⑤ 河内、高橋

10 上州三峰山 <224>

上牧ー上州三峰山ー後閑

① 柿原(和)

〃 **尾瀬ケ原** <225>

戸倉ー鳩待峠ー尾瀬ヶ原ー渋沢ノ湯ー鷹ノ巣ー小出

（至仏、燧、平ヶ岳の3山を目指すが雨ですべて御破算）

④ 柿原父子、那須

10 白　　山　　<226>

室堂に泊って御前峰、剣ヶ峰、大汝峰の３ピークに登る

③　　木村

11 北八ッ天狗岳　　<227>

茅野－渋ノ湯－黒百合平より天狗岳往復－高見石－白樺尾根－稲子湯－松原湖

③　　須崎

〃 鎌ケ岳　　<228>

湯の山－三ッ口谷－鎌ヶ岳－湯の山

①　　木村

〃 大菩薩峠　　<229>

塩山－裂石－丸川峠－大菩薩嶺－富士見新道－上白川峠－石丸峠－大菩薩峠－フルコンバー小菅

②　　柿原(和)

12 武川岳・二子山・秩父御岳山　　<230>

飯能－妻坂峠－武川岳－二子山－芦ガ久保－皆野－三峰口－強石－御岳山－三峰口（皆野にて針葉樹会懇親会）

②　　（前半）柿原(謙)、望月　（後半）針葉樹全員多数

〃 甲武信岳・雁坂峠　　<231>

信濃川上－梓山－扇平山往復－千曲川西沢－甲武信岳－破風山－雁坂峠－水晶山－雁峠(続く)

④　　柿原(和)

1974　　（54才）

1 雁峠・雲取山　　<231>

<231>の続き－将監峠－飛竜権現－雲取山－三峰神社

②　　柿原(和)

行きがけに、梓山の扇平山に登る。山田さんは、ここまでは村尾さんも登っていまい、といってニヤリとされた。縦走路には雪が皆無。おかげで行程は捗った。初日没が南アを朱に染める頃、雲取山頂に着いたが、風もないのにタバコに火が付かないと、山田さんがこぼすほどの寒さだった。（柿原和夫）

1 大持山・小持山・武甲山　　<232>

飯能－白岩－島首峠－大持山－小持山－武甲山－浦山口

①　　柿原父子、那須、河内

2 志賀高原スキー　<233>

④　須崎、武内夫妻

3 四阿山スキー登山　<234>

今回も登頂せず

③　針葉樹会員多数、木村、柿原(和)

〃 鹿島国際・八方尾根スキー　<235>

④　木村、柿原(和)、那須

4 天女山　<236>

甲斐大泉より往復　頂上にツェルトを張り権現を目指すも雨

②(天)

〃 千丈沢より西鎌尾根　<237>

大町－湯俣－千天出合ＢＣ－千丈沢より西鎌尾根往復－湯俣－大町

③(天)　木村、柿原(和)、那須

5 蓮華岳・立山　<238>

立山でスキー

④　柿原(和)、河内、須崎、武内夫妻　(蓮華のみ)白百合ワンゲル4

〃 権現岳・編笠山　<239>

甲斐大泉－天女山－三ッ頭－権現岳－編笠山－小淵沢

②(天)　高橋、河内

6 雲取山　<240>

三峰口－霧藻ノ峰－白岩山－雲取山－大ダワ－日原－奥多摩

②　柿原父子　(前半)白百合ワンゲル7

〃 入笠山・守屋山　<241>

富士見－入笠山－金沢峠－千代田湖－杖突峠－守屋山－片倉－茅野

②　高橋、那須、河内

〃 平標山　<242>

元橋－平元新道－平標山－平標新道－土樽

①　白百合ワンゲル数名

7 剱岳・立山　<243>

大町－室堂－雷鳥沢－剱沢ＢＣ－剱岳・立山－ハシゴ段乗越－内蔵助平－黒四ダム－大町

⑤(天)　木村、花井、高橋、河内

8 赤木平生活 <244>

有峰口ー折立ー太郎平ー赤木平ＢＣー赤木沢・黒部源流ー北俣岳ー神岡新道ー打保ー猿谷

△7 天　　柿原(和)

黒部源流の二回戦。前年の経験から、幕営地を赤木平に定めた。ここは、山田さんが学生時代から気になっていた所との由。今回も晴天日はなかったが、赤木平の豊かな植物相と、ニッコウキスゲが咲き乱れる赤木沢に感激した。（柿原和夫）

9 木曽駒ケ岳 <245>

ロープウェイ登山、天候悪化して空木岳をあきらめる

△3　　柿原(謙)、河内、高橋

10 奥又白池・涸沢 <246>

上高地ー徳沢ー奥又白出合ＢＣー中畑新道ー池ー北尾根５・６のコルー涸沢ーＢＣー明神ー上高地

△3 天　　小林、那須　（前・後）柿原(謙)

11 雁　峠 <247>

広瀬ー雁峠ー釣橋小舎ー川又ー三峰口

△3 天　　柿原(和)

〃 茅ケ岳・金ケ岳 <248>

穴山鉱泉ー柳平ー茅ヶ岳ー金ヶ岳ー東光ー韮崎

△2　　柿原(謙)、小林、倉知、河内、中村保

「急坂を登り、ついで落葉の深い道に汗をかくことしばし、やがて稜線に立った。また一休みである。金峰山が新雪に薄化粧して、国師への山嶺が眺められる。すみきった冬晴れにめぐまれたと思う。

いよいよ茅ヶ岳の頂上も近いと腰をあげた。山田さんと二人でしんがりを歩く。」

（柿原謙一「茅ヶ岳と金ヶ岳」針葉樹会報復刊４２号）

12 御坂黒岳 <249>

石和よりマイカーで旧御坂峠へ

△1　　須崎

〃 鹿島国際スキー <250>

△4　　山田浩司

1975　（55才）

1 オドケ山・西御荷鉾山 <251>

万場ー塩沢ーオドケ山ー西御荷鉾山ー万場

①　　柿原(謙)

1　鹿島国際スキー　　<252>
①　　柿原(和)

2　木曽御岳山スキー　　<253>
木村、中島、和夫の3人登頂　他は6合目まで
③　　柿原父子、中島、木村

3　四阿山スキー登山（頂上まで）　　<254>
4回目にしてようやく頂上を踏む
③　　柿原父子、倉知
「小四阿山をこえても僕の不安はまだ続いた。あそこから急登になる。持病の足がつるくせがでそうな予感がする。いよいよダメかなと思ったが六十才をこえた柿原さんが元気に登っている。
時間もまだ早い。もう少し頑張りましょう。あえぎあえぎの急登が終って上の台地にでると、傾斜がグンとゆるくなり、美しい乳房のような頂上がはじめて姿を見せる。この時である。ああこんどこそ登ったなという確信が湧いたのは。」
（「登りましたよ四阿山」針葉樹会報復刊44号）

〃　志賀高原スキー　　<255>
④　　須崎、武内夫妻

〃　雲取山　　<256>
三峰口ー三峰神社ー白岩山ー雲取山ー七ッ石山ー鴨沢
②　　柿原父子、河内、高橋、後藤章子

4　乗鞍岳スキー　　<257>
③　　木村、柿原(和)、那須

〃　黒川鶏冠山　　<258>
マイカーで柳沢峠へ、峠から往復
①　　須崎

〃　立山スキー　　<259>
室堂より一の越へ登り、東一の越、タンボ沢へとすべる
①　　柿原(和)、武内(三)
のち木村来り、親の原へ遊ぶ。

5　針ノ木岳（マヤクボまで）　　<260>
①　　ひとり

5 小 楢 山 <261>

マイカーで焼山峠まで、峠より往復

①　須崎

〃 至 仏 山 <262>

沼田－鳩待峠－山ノ鼻－至仏山－尾瀬原－富士見峠－沼田

②　天　小林、河内、高橋

6 両 神 山 <263>

白井差小舎にて木村君歓迎コンパ

②　木村、柿原父子、那須、河内、高橋

〃 秋田駒ケ岳 <264>

盛岡－国見温泉－秋田駒ヶ岳－黒湯－田沢湖

③　須崎

7 焼石岳・経塚山 <265>

水沢－ツブ沼－焼石岳－経塚山－夏油温泉－水沢

③　天　那須、河内、後藤

標高の割にはさすが東北、残雪もあり水も豊富で、縦走最後のピークの経塚山頂から振り返った、越えてきた山なみは、思いの他大きく、長く連らなっていた。

ぐんぐん下って、やっと降り立った夏油河原での最後の一夜は、星空の下でたき火を囲み、皆で話したり歌ったり、心に残るひと時だった。（河内リエ子）

〃 宝川より朝日岳・白毛門山へ <266>

水上－宝川－朝日岳－笠ヶ岳－白毛門山－土合

②　天　柿原(謙)、小林

〃 赤木平生活 <267>

有峰口－折立－大郎平－北俣岳－赤木平ＢＣ－薬師沢左俣－黒部川源流－赤木沢－ＢＣ－往路を戻る－折立－有峰口

⑤　天　柿原父子、木村

黒部源流の赤木平で暮した。林俊介さんの遺品を草原にある丘の上に納め、小ケルンをたてた。亮さんのおかげで果せた。（柿原謙一）

8 黒部川東沢 <268>

大町－黒四ダム－平－東沢－野口五郎岳－ブナ立尾根－大町

③　天　柿原(和)

9 槍 尾 岳 <269>

駒ヶ根－千畳敷－槍尾岳－槍尾々根－駒ヶ根

②　倉知

10 虎毛山 <270>

稲住温泉より往復、村尾金二氏追悼

△2 近藤、望月、高木しげ子

12 権兵衛峠 <271>

高遠ー伊那ー南沢鉱泉ー権ベエ峠ー奈良井

△2 柿原(謙)

年末の山旅。伊那から木曽へ。村尾先輩を偲ぶ。伊那側の陽に対し木曽側の陰を実感。ただどちらの地酒も甘かった。大町に戻ってから、白馬錦でバイーとする。(柿原謙一)

12 遠見尾根スキー <272>

△1 柿原(和)

<Ⅳ>

1976　（56才）

1 御在所・藤内沢　<273>
①　木村

〃 志賀高原スキー　<274>
④　須崎、武内夫妻

2 鹿島国際スキー　<275>
③　ひとり

〃 鼻曲山　<276>
②　河内、柿原父子、木村、高橋、那須、後藤

3 鹿島国際・遠見尾根スキー　<277>
④　柿原父子

5 針ノ木雪渓・爺ケ岳　<278>
⑤　柿原父子、木村、須崎、武内夫妻

〃 上高地（西穂高途中まで）　<279>
③　中島、倉知、原博貞

〃 夜叉神峠　<280>
石和よりマイカーで峠下まで、あと往復
①　須崎

6 扇山　<281>
鳥沢ー扇山ー大野貯水地ー四方津
①　ひとり

〃 要害山　<282>
甲府近郊をドライブ、ついでに登る
①　須崎

〃 白砂山　<283>
マイカーで野反湖へ、白砂山往復
②　天　柿原父子

8 鹿島槍ケ岳・爺ケ岳 <284>

大町ー扇沢ー種地ー爺ヶ岳ー鹿島槍ヶ岳往復ー大町

②　　中村格二夫妻、中島寛父子、俵昭、高橋、後藤

12 伊豆ケ岳 <285>

正丸ー伊豆ヶ岳ー高畑山ー天目指峠ー西吾野

①　　柿原(謙)、小林

〃 御池山 <286>

平岡ー下栗ー御池山往復ー伊那市

③　　柿原父子、倉知

「御池山にむかって井戸端を発ったのが8時20分、1060米標示のある上村小学校下栗分校をすぎて、ぽつぽつ小休止をかさね、炭焼山雨量無線テレメーター観測所をよぎって、御池山頂上稜線の南端についたのが1時に近かった。下栗から浅い雪をふんでいたが、針葉樹林帯をぬけてから頂上稜線南端に至る間の雪原の雪は深かった。」

（柿原謙一「下栗部落と御池山」針葉樹会報復刊53号）

1977　（57才）

1 志賀高原スキー <287>

⑥　　須崎、武内夫妻

2 鹿島国際スキー <288>

②　　木村、柿原(和)

3 安達太良山スキー登山 <289>

岳温泉より往復

③　　倉知

「前夜、岳温泉に泊った山田先輩とぼくは20日朝、寒々とした曇天の小雪もちらつく中、スキー場の最後のリフトの終点にやって来た。リフトを下りると、馬鹿に急な斜面がつづいていて、その上はガスで何も見えない。どうも登る気がしないが、雪は堅そうなのでツボ足でフラフラと登り出してしまった。……

三時間足らずで頂上の岩峰に着き、何も見えないまま引き返した。」

（倉知敬「スキー登山のすすめ・安達太良山」針葉樹会報復刊52号）

4 御坊山・笹子雁腹摺山 <290>

笹子ー大鹿峠ー御坊山ー笹子雁腹摺山ー笹子峠ー初鹿野

①　　柿原(謙)、高橋、後藤

4 明星山々麓めぐり <291>

①　　柿原(謙)

5 八方尾根・針ノ木峠スキー <292>

大町滞在

④　　柿原父子(謙、和、歌子)、木村、花井

〃 黒森沢・七ヶ岳・平滑沢 <293>

会津田島ー針生ー黒森沢ー七ヶ岳ー平滑沢ー羽塩

②(天)　　那須、高橋、後藤

前年秋の七ヶ岳の紅葉が忘れ難く、山田さんたちを誘っての二度目の山行。山頂にテントを張ってその夜は山菜づくし。山田さんの感激すること。林道の山菜に狂喜しながら歩いた私たちだけの静かな山であった。(那須美智)

8 ヌクイ谷・五色ヶ原・南沢・南沢岳 <294>

大町ー黒四ダムー平BCーヌクイ谷から五色ヶ原往復ー南沢ー南沢岳ーブナ立尾根ー大町

④(天)　　倉知、高橋、後藤　(前半)柿原父子、木村父子

「渡渉は痛いほどつめたかった。高度1800米あたりで少憩し、つづいて滝を高捲いてから鳶山側よりくる小沢をわたり、やがて雪渓にとりついた。雪渓中段で昼食をとり、越中沢岳と鳶山の間の最低部に登って縦走路に合したのが午后一時。出発してから六時間余を要した。」

(柿原謙一「ヌクイ谷を登る」針葉樹会報復刊51号)

〃 朝日岳・雪倉岳・白馬岳・白馬鑓ヶ岳 <295>

平岩ー蓮華温泉ー朝日岳ー雪倉岳ー鉢ヶ岳ー白馬岳ー白馬鑓ヶ岳ー鑓温泉ー猿倉ー白馬ー大町

③(天)　　那須、後藤

モッコで渡った瀬戸川にも現在は立派な橋が架かっている。二日目のキャンプ地(雪倉上ノ沢源頭部)は眺めといい水場といい最高の場所。山田さんの千里眼に敬服する。鑓見温泉は横目で見ながらエコノミスト村温泉へと急ぐ。想い出すになつかしい山旅である。(那須美智)

9 霊 仙 山 <296>

名古屋からマイカーで登山口へ

①　　木村

〃 針ノ木岳・蓮華岳・七倉岳 <297>

大町ー扇沢ーマヤクボー針ノ木岳ー峠ー蓮華岳ー北葛岳ー七倉岳ー七倉尾根ー七倉ー大町

④(天)　　高橋、後藤

10 蓬　　峠 <298>

土合ー湯檜曽川ー白樺尾根ー蓬峠ー土樽

②(天)　　小林、後藤

11 茶臼岳・朝日岳 ＜299＞

黒磯ーロープウェイー茶臼岳ー峰の茶屋ー三斗小舎ー大峠ー三本槍ヶ岳ー朝日岳ー黒磯

②　　高橋、後藤

12 鹿島国際・爺ケ岳スキー ＜300＞

⑥　　柿原父子（謙、和、歌）、後藤

1978　（58才）

1 志賀高原スキー ＜301＞

④　　須崎

2 磐梯山スキー登山 ＜302＞

③　　倉知、藤本敏行、加藤博行、市原信男

「（裏磐梯）スキー場から道は火口壁のふもとまで行って右に曲り、壁の右端にある中の湯の小屋を経て、やせた尾根伝いに頂上に至る。前日雨が降ったとかで雪は固く、皆スキーをかついでツボ足で歩き出したが、一人山田さんだけはシールをつけて行く。ところがその状況判断は誠に正しく、あれよあれよという間に山田さんは、はるか彼方に姿を消してしまった。固そうに見えても部分的にもぐる雪は、歩くに意外と時間を喰う……ひときわ急になった稜線を登りつづけ、ちょっとした吹雪の頂上にたどりついた。十時にスキー場を出てほゞ四時間、二時少し前のことであった。」

（倉知敬「スキー登山のすすめ・磐梯山」針葉樹会報復刊52号）

3 八方尾根スキー ＜303＞

③　　柿原(和)他一人

〃 志賀高原スキー ＜304＞

④　　柿原(和)、須崎、武内夫妻

4 乗鞍岳スキー ＜305＞

④　　木村、倉知

5 針ノ木峠スキー・黒沢峠 ＜306＞

大町滞在

⑤　　大橋、木村、花井、柿原夫妻（和、歌）

7 餓鬼岳 ＜307＞

大町ー中房温泉ー中房川ー東沢乗越ー東沢岳ー餓鬼岳ー百曲りー大　山ー白沢ー信濃トキワー大町

②　㊡　　倉知

夏休みのシーズンに入ると、誰れ彼れかが入れかわりエコノミスト村にやって来て、山田さん宅に泊り込むのが恒例となっていた。この年の７月末の最盛期には珍らしく他に誰も姿を見せず、一寸と裏山へ登るという気分で、２人で餓鬼へ登ることとなった。

２９日、タクシーで中房温泉まで行き、中房川本谷をつめて東沢乗越直下の沢中に幕営。30日は快晴の下、乗越に出てから気持よい稜線歩き、剣吊は長いまき道を行き、午後１時頂上に到着。小屋に泊るはずが、気分変りそのまゝ信濃常盤へ下山することにしたが、その下りが長い。相当にバテたその下り道の経験はこの山行の強い印象として残り、山田さんもその後、事につけ、あの時は・・・と苦笑まじりに語るのが常となった。（倉知敬）

8　双六谷・九郎衛門谷・三俣蓮華岳　　＜308＞

新穂高ー大ノマ乗越ー弓折岳ー双六池ＢＣ－双六谷ー蓮華谷ー九郎右衛門谷ー黒部乗越ー三俣蓮華岳ーＢＣ－往路を戻るー新穂高

△5 ㊡　　柿原(和)、後藤

黒部源流が済んだので、岩魚に習い、双六へ移る。魚影を追って、双六源流を降る。九郎衛門沢は明るく快適な沢だった。黒部乗越でのんびりしなかったのが心残りである。（柿原和夫）

2　鹿島国際スキー　　＜309＞

△3　　柿原(和)

1979　　（59才）

2　志賀高原スキー　　＜310＞

△4　　須崎

4　景信山・高尾山　　＜311＞

高尾ー景信山ー小仏峠ー高尾山ー高尾山口

△1　　ひとり

〃　北高尾山稜　　＜312＞

陣馬高原下ー明王峠ー堂所山ー北高尾山稜ー高尾

△1　　ひとり

5　爺ヶ岳・針ノ木雪渓スキー　　＜313＞

大町滞在

△4　　木村、花井、柿原(和)

〃　八方尾根　　＜314＞

大町滞在　和夫丸山からすべる

△1　　柿原父子

5 北高尾山稜 <315>

①　柿原(謙)、佐々木

〃 北高尾山稜 <316>

①　高橋、後藤

6 志賀坂峠 <317>

①　柿原(謙)、佐々木

〃 十文字峠 <318>

信濃川上ー梓山ー十文字峠ー栃本ー三峰口（T．Gは甲武信岳、雁坂峠へ）

②　柿原（謙、歌）、高橋、後藤

〃 高尾山・景信山 <319>

高尾山口ー高尾山ー小仏峠ー景信山ー底沢ー相模湖

①　ひとり

7 櫛形山 <320>

沢口ー平林ー櫛形山ー唐松岳ー高尾ー甲府

②　㊡　柿原(謙)、倉知、後藤

〃 爺ケ岳（南尾根より） <321>

大町ー扇沢ー南尾根ー爺ケ岳ー種池ー扇沢ー大町

①　ひとり

8 黒部湖 <322>

赤牛岳を目指して出発　黒四ダムで大雨、大町滞在

⑤　木村、倉知、柿原(和)、後藤

〃 爺ケ岳南尾根 <323>

尾根上部にて雷雨、頂上に到らず

②　㊡　柿原(謙)

9 守門岳 <324>

長岡ー栃堀ー保久礼小舎ー大岳ー青雲岳ー守門岳ー大白河

②　㊡　高橋、後藤

10 雨飾山 <325>

大町ー小谷温泉ー広河原ＢＣー雨飾山往復ー鎌沼ー小谷温泉ー大町

③　㊡　柿原(謙)、佐々木、高橋、後藤

大海川のやや広い川原に至り幕営。焚火と星空と合唱。翌日頂上から海谷峡谷を展望。帰途鎌池に廻り、紅葉の美を満喫する。（柿原謙一）

10 巻機山 <326>

山岳部ＯＢ・現役懇親山行、割引沢から登る

②　針葉樹会員、山岳部員多数

11 笛吹川西沢・国師岳・千曲川西沢 <327>

塩山ー笛吹川西沢ー天狗尾根ー国師岳ー北奥千丈岳ーミズシーー千曲川西沢ー梓山ー信濃川上

③ (天)　後藤

森林帯を抜けると天狗尾根は岩稜になり、展望が開けてくる。カラッと明るい登りに、大きな天狗岩が現われると、山田さんの本領発揮、すっりゴキゲンだった。（後藤章子）

〃 **御座山** <328>

小海ー山口ー御座山ー白岩ーブドー峠ー秩父

②　柿原(謙)、佐々木、望月、高木

「山頂の諏訪明神の木祠はかなり傷み、前には確に目にした三角点標石は見当らなかった。また前回登ったときあった無人雨量観測用の小さな建物はなくなったかわりに、樹木のなかに登山者用の避難小屋ができていた。

われわれは小屋の近くで、ゆっくり弁当をとった。山田君が沸かしてくれたコーヒーがおいしかった。一時間以上休んだあと、北東の尾根を下った。」

（望月達夫「御座山三遊」針葉樹会報復刊５６号）

12 荒船山・富士浅間山 <329>

下仁田ー相沢ー荒船山ー星尾峠ー勧能ー六車ー富士浅間山ー小沢ー下仁田

②　柿原(謙)、佐々木、高橋、後藤

〃 **余地峠・鹿岳** <330>

勧能に滞在、余地峠を往復し、帰途鹿岳に登る

③　柿原(謙)、後藤

1980　（60才）

1 柿原邸雪見酒 <331>

秩父に行く電車の中で雪、奈良尾峠から方向転換

①　柿原(謙)、高橋

2 鹿島国際スキー <332>

③　ひとり

3 志賀高原スキー <333>

④　須崎

3 高水三山 <334>

軍畑－高水山－岩茸石山－惣岳山－御岳

①　ひとり

〃 赤久縄山 <335>

下仁田－杖植峠－赤久縄山－栗木平－万場－鬼石

②　後藤

4 蕨　山 <336>

飯能－河又－金比羅尾根－藤棚山－わらび山－名郷－東飯能

①　ひとり

4 二子山 <337>

秩父－二子山登山口－股峠－二子山西峰－魚尾道峠－登山口－秩父

②　柿原(謙)、佐々木

〃 日之出山・金比羅尾根 <338>

御岳－御岳山－日の出山－金比羅尾根－金比羅山－五日市

①　柿原(謙)、岩崎

〃 八方尾根幕営スキー <339>

冬期用テントを第3ケルン先に張り、丸山からすべる

②　天　柿原父子、木村

5 大沢小舎附近幕営 <340>

みんなは蓮華に行ったが途中でダウン

③　天　高橋、後藤、柿原(和)、山崎、山岳部現役他

〃 秩父熊倉山 <341>

①　柿原(謙)、高橋、後藤

〃 大倉高丸・滝子山 <342>

初鹿野－湯の沢峠－大倉高丸－大谷丸－滝子山－初狩

①　高橋、後藤

6 日光白根山 <343>

東武日光－湯元－前白根山－五色沼－白根山－湯元－日光

②　天　高橋、後藤

〃 水ノ塔山・湯の丸山 <344>

小諸－車坂峠－水ノ塔山－旧鹿沢－角間峠－湯の丸山－烏帽子岳－上田

②　柿原(謙)、佐々木

7 高尾山・景信山・陣馬山 ＜345＞

①　　高橋、後藤

8 毛勝山 ＜346＞

大町からマイカーで片貝川阿部木谷へ、帰りは乗鞍岳ドライブ

③ 天　　柿原父子、倉知

大町に下車すると、山田・倉知・柿原息が待機しており、すぐに毛勝入りだという。マイカーで阿部木谷へ直行し、標高千米あたりで幕営。田部さんの毛勝に登れて大満足。J・A・C会報「山」４２９号に、拙稿「毛勝谷」あり。（柿原謙一）

大町の山田さん宅に集まってから、さあどこに行こうか、と話し合ったところ、皆が行ったことのない毛勝山となった。いい山を登り残していたではないか、というわけである。

８月１０日、幕営地を朝6時発、渡渉を4回した後は、ほゞ雪渓登りをつづけ、源流近くの急な沢をつめると頂上近くの稜線にとび出た。１２時半に頂上、帰幕は夕方6時半。誰にもあわぬ静かな夏山であった。（倉知　敬）

〃 赤牛岳・水晶岳 ＜347＞

大町－黒四ダム－平－東沢出合－読売新道－赤牛岳－水晶岳－野口五郎岳－ブナ立尾根－大町

⑤ 天　　高橋、後藤

赤牛岳を縦走最後の１ピークとして踏んでしまっては、この山に対して失礼である。読売新道を汗をしぼりながらひたすら登り続けると、私たち３人だけを３６０°の展望で迎えてくれた。３度目の正直でやっと登ることのできた、この何とも存在感のある秘峰、私の一番思い出深く大切な山である。（後藤章子）

9 蓬峠より谷川岳・仙ノ倉山へ ＜348＞

土合－蓬峠－武能岳－茂倉岳－一の倉岳－谷川岳－万太郎頭－仙ノ倉山－平標山－元橋－越後湯沢

③ 天　　高橋、後藤　（前半のみ）柿原(謙)

10 裏妙義・谷急沢 ＜349＞

那須君のネパール行の送別山行

①　　那須、柿原父子、高橋、後藤

〃 高水山・棒ノ折山 ＜350＞

軍畑－高水山－岩茸石山－黒山－雨ノ沢山－棒ノ折山－河又－東飯能

①　　柿原(謙)

11 市道山・臼杵山 ＜351＞

八王子－陣馬高原下－和田峠－市道山－臼杵山－盆堀－五日市

①　　柿原(謙)

黒岳・雁腹摺山・姥子山　<352>

初鹿野ー湯ノ沢峠ー黒岳ー大峠ー雁腹摺山ー姥子山ー金山峠ー金山ー大月

②　㊡　　高橋、後藤

鶴ヶ島屋山　<353>

笹子ー清八峠ー本社ヶ丸ー鶴ヶ島屋山ー初狩

①　　後藤

源二郎岳　<354>

初鹿野ー嵯峨塩鉱泉ー源二郎岳（メガネを落す）ー戻って1390メートルの無名峰ー鉱泉ー初鹿野

①　　後藤

1981　（61才）

1 奈良尾峠 ＜355＞

皆野ー門平ー奈良尾峠ー今里ー鬼石

△1　柿原(謙)、高橋

2 浅間嶺 ＜356＞

後藤ヒザを痛める

△1　後藤、高橋

〃 雲取山から石尾根 ＜357＞

秩父ー三峰神社ー白岩山ー雲取山ー七ッ石山ー鷹ノ巣山ー奥多摩

△2　柿原(謙)

〃 日光白根山スキー ＜358＞

△3　倉知、柿原(和)

3 志賀高原スキー ＜359＞

△5　須崎

4 乗鞍岳幕営スキー ＜360＞

△3 天　柿原(和)

5 刈寄山 ＜361＞

八王子ー森久保ー入山峠ー刈寄山ー今熊山ー八王子

△1　ひとり

7 日之出山 ＜362＞

日向和田ー日之出山ー御岳山ー鳩ノ巣

△1　ひとり

〃 雷鳥沢より奥大日岳・竜王岳 ＜363＞

雷鳥沢にテント、両山を往復

△4 天　柿原(謙)

６０歳台の２人が雷鳥沢にテントを張り、２人が初めて出合った地獄谷を訪う。針葉樹会報復刊６０号に拙稿「奥大日岳の乙女」あり。（柿原謙一）

8 高瀬湖・湯俣 <364>

①　　ひとり

〃 **爺ケ岳・鹿島槍ケ岳** <365>

大町ー扇沢ー南尾根ー爺ヶ岳ー鹿島槍ヶ岳ー赤岩尾根ー大谷原ー大町

②　㊡　　ひとり

〃 **蓮華岳** <366>

針ノ木峠より往復

①　　ひとり

〃 **カナディアン・ロッキーズの山旅** <367>

エドモントンージャスパーグレイシャー・レイクーフォーブス・ライエル山域（無名峰登頂）ーレイクルイズーバンフーアッパー・カナナスキス・レイクーヒドン・レイクーアスター・レイクージョフレ登山ーバンフーモレーン・レイクーラーチ・バレー・テンプル登山ーバンフーバンクーバー

15　㊡　　倉知、加藤、柿原(和)　（前半）兵藤元史

「やがて道はゆるい下りとなり、大きなカールの底へと僕を導いてゆく。ライエル大氷原の舌端と、氷原から派生してアルクトマイズ峰からスリバン峰へとつづく山稜に囲まれた圏谷に下り立って僕は茫然とした。足許から見渡すかぎり一面の素晴らしいお花畑だ。カナダでは何と呼ぶ花なのか。形は日本のウサギギクに似ているが、色は高雅な薄紫で、いかにも高峰にふさわしい気品のある花が見事なまでに群生し、黄と赤のこれまた名も知れぬ花々が色彩のあやをそえ、その豪華でけんらんたる花のじゅうたんが、いつ果てるともなく上へ上へとせりあがっていく。

鳥海、飯豊、朝日、早池峰などの東北の山々や北アルプスの夏、僕は美しい日本のお花畑に感嘆してきたが、これほど広大で魅惑的な色彩の大群落はみたことがない。ああこれがメドウか、これがカナダのアルパイン・メドウなのか。僕はいくらか酩酊したような気分になり、メドウの中のあるかなしかのトレイルをひろいながら、歩一歩と圏谷を高みへと登っていった。」

「息つくひまもないカナダの自然の美に圧倒されながら、僕は右手にみえる小さなピークへと向う。後立山の唐松岳をいくらか大きくしたような山稜上の一突起にすぎないが、やはり頂上だけは踏んでおきたい。ガラ場を避けて雪渓をつめ、最後は巨大な岩塊の間を縫うようにして登ると、もうそれ以上に高いところはなかった。

このピークが前世紀末に初登頂されたことは記録されているが、こんな無名の小突起を訪れる人はほとんどないのであろう。山頂には人間の踏跡を示すものは何一つなく、ケルンさえも積まれていない。その原始そのままの小さな頂きで、３６０度にひろがるカナディアン・ロッキーズの大展望を前に、僕はほとんど忘我の一時間を過した。」

（「美しいメドウと小さな頂き ── カナダの山旅から」針葉樹会報６１号）

9 馬頭刈尾根 <368>

五日市ー大岳鍾乳洞ー大岳山ー馬頭刈尾根ー五日市

①　　柿原(謙)、小林

9 高岩山 <369>

五日市－上養沢－高岩山－御岳山－大塚山－丹三郎－古里

①　　ひとり

10 黒姫山・高妻山・飯綱山 <370>

戸隠牧場にＢＣ　ピストンにて３山に登る

④ 天　　柿原父子、佐々木、後藤

戸隠村営キャンプ場３泊で、柿原息マイカー活用に助けられ、三山とも登頂。紅葉のすばらしさを堪能した。（柿原謙一）

山田さんの発案により、紅葉の戸隠牧場で、カナダ土産のクラウン・ロイヤルを飲むことになった。山田さんは、北信の山の紅葉を繰り返し絶賛していたが、この折りには、やはり日本の山は美しい、と独り言のように呟かれた。（柿原和夫）

〃 **湯久保尾根・御前山** <371>

五日市－小沢－湯久保尾根－御前山－大ダワ－奥多摩

①　　柿原(謙)

〃 **甘利山・千頭星山** <372>

韮崎－甘利山－千頭星山－御所山－青木鉱泉－韮崎

②　　柿原(謙)、望月、佐々木

11 月夜見山・倉掛尾根 <373>

奥多摩－ダム－小河内峠－月夜見山－倉掛尾根－小岩－五日市

①　　柿原(謙)

〃 **小熊山・鍬ノ峰** <374>

大町滞在　両山に登る

④　　柿原(謙)

高瀬川右岸に立つこの山は、信濃池田あたりから眺めると気にかかる山。エコノミスト村より往復した。展望がなんともよい。亮さんも満足した。（柿原謙一）

〃 **足和田山・王岳** <375>

針葉樹会懇親山行　２日目　鍵掛峠から女坂峠に到る

②　　針葉樹会員多数

12 愛鷹山 <376>

御殿場－須山－田向－位牌岳－愛鷹山－柳沢－御殿場

②　　佐々木夫妻

12 笠山・堂平山・丸山 <377>

小川町－東山－笠山－堂平山－丸山－金昌寺－秩父

①　柿原(謙)

〃 通矢尾根 <378>

二俣尾－愛宕神社－通矢尾根－岩井－五日市

①　ひとり

〃 浅間峠・生藤山 <379>

五日市－上川乗－浅間峠－熊倉山－生藤山－三国山－上野原

①　柿原(謙)

〃 青梅丘稜 <380>

石神前－辛垣城跡－雷電山－榎峠－軍畑

①　ひとり

〃 四ッ又山・兜岩山 <381>

下仁田－小沢－四ッ又山－勧能－兜岩山往復－下仁田

③　柿原(謙)、佐々木

1982 （62才）

1 御岳山・鋸山 <382>

御岳－御岳山－大岳小舎－鋸山－鋸尾根－奥多摩

①　柿原(謙)

〃 今倉山より巌道峠へ <383>

都留市－道坂峠－今倉山－菜畑山－赤鞍ヶ岳－長尾山－御牧戸山－巌道峠－神波美峠－神野－上野原

③　天　後藤

〃 倉岳山・高畑山 <384>

梁川－立野峠－倉岳山－穴路峠－高畑山－鳥沢

①　ひとり

〃 破風山・城峰山 <385>

皆野－破風山－札立峠－頼母沢－三峰センター－重木－風早峠－奈良屋峠－城峰山－門平－皆野

②　柿原(謙)

2 西原峠・笹尾根 ＜386＞

五日市－中ノ平－西原峠－槇寄山－笛吹峠－丸山－小楢峠－大垣外－上野原

①　　柿原(謙)

〃 **梅ヶ谷峠と馬引沢峠** ＜387＞

宮の平－梅ヶ谷峠－水口－天狗岩三角点－馬引沢峠－坂本

①　　ひとり

〃 **秋山二十六夜山** ＜388＞

梁川－寺下峠－尾崎－二十六夜山－ヒモシド沢－坂崎－上野原

①　　高橋、後藤

〃 **志賀高原スキー** ＜389＞

④　　須崎

3 高 柄 山 ＜390＞

四方津－大地峠－高柄山－矢ノ根峠－上ノ原

①　　ひとり

〃 **奥多摩おでんの会**（通矢尾根・愛宕神社奥社） ＜391＞

①　　高橋、後藤

〃 **矢平山・阿夫利山** ＜392＞

鳥沢－六路峠道－倉岳山－立野峠－寺下峠－矢平山－大地峠－大地－神野－金波美峠－阿夫利山－富岡－上野原

②　㊡　　ひとり

〃 **富士見山** ＜393＞

甲府－堂平－富士見山－甲府

②　　望月、佐々木、森ふさ子

〃 **矢平山・金山峠** ＜394＞

深川－寺下峠－矢平山－大地峠－金山峠－金山－落合－上野原

①　　ひとり

〃 **酉谷山・天祖山** ＜395＞

奥多摩－東日原－横スズ尾根－一杯水－酉谷山－水源林道－天祖山－八丁橋－東日原－奥多摩

②　㊡　　高橋、後藤

4 山 伏 岳 ＜396＞

静岡－新田－扇ノ要－新窪乗越－山伏岳－牛首峠－新田－静岡

③　㊡　　木村、柿原(和)、高橋、後藤

4～5 荒海山・窓明山・三岩岳 <397>

早坂－荒海川－1249メートル峰南鞍部BC－荒海山往復－番屋－大桃－高畑高原往復－小立岩－安越又川西沢・東沢合流点BC－窓明山・三岩岳往復－小立岩－田島

△1 天 高橋、後藤

残雪を踏んで自由に歩き回る5月の南会津の楽しさ！── 荒海山テント場のイワウチワの大群落、残雪期以外は人の眼に触れることもないであろうブナの原生林、奇妙なチン入者をキョトンと見つめていた窓明山のカモシカ──。窓明山から会津朝日岳へ続く稜線に心惹かれながら、いつの日かトレースすることを誓いつつ、4日ぶりに小立岩に戻った時には、ふきのとうで一杯になったポリ袋を手にしていた。（後藤章子）

5 黒岳・節刀ヶ岳・鬼ヶ岳 <398>

河口湖－旧御坂トンネル－御坂山－黒岳－破風山－大石峠－節刀ヶ岳－鬼ヶ岳－十二ヶ岳－毛無山－長浜－河口湖

△2 天 柿原(謙)、佐々木

〃 **大白森山・小白森山** <399>

黒磯－北温泉－清水平－三本槍ヶ岳－坊主沼－甲子山－甲子峠－大白森山－二俣温泉－須賀川

△2 那須、高橋、後藤

6 小川山 <400>

韮崎－金山－富士見平－八丁平－小川山－小川牧場－川上

△2 天 柿原(謙)、佐々木夫妻、高橋、後藤

〃 **仙ノ倉谷** <401>

土樽－毛渡沢出合－仙ノ倉谷－イイ沢出合－往路を戻る－土樽

△2 天 柿原(謙)、後藤

7 高沢山・弁天山 <402>

長野原－野反湖－エビ山・高沢山・三壁山－弁天山－花敷温泉－長野原

△3 天 高橋、後藤

〃 **風吹大池** <403>

白馬－栂池平－天狗原－フスブリ山－風吹大池－北小谷

△2 天 ひとり

〃 **高瀬湖・湯俣** <404>

竹村新道経由で赤牛岳を目指すも台風、増水で退却

△3 天 柿原父子、望月、佐々木

8 赤木平生活 <405>

薬師沢左俣と赤木沢（3回目） 雨にたたられる

△6 天 高橋、後藤

8 雪倉山麓道・白馬岳 <406>

平岩ー蓮華温泉ー雪倉山麓道ー三国境ー白馬岳ー大雪渓ー猿倉ー白馬

△3 (天) ひとり

9 宝剣岳より空木岳・越百山へ <407>

駒ヶ根ー千畳敷ー宝剣岳ー槍尾岳ー熊沢山ー東川岳ー空木岳ー南駒ヶ岳ー越百山ー伊奈川ダムー須原

△4 柿原(謙)、佐々木

〃 **袈裟丸山** <408>

沢入ー塔ノ沢ー避難小舎ー小丸山ー袈裟丸山ーつつじ平ー林道ー沢入

△2 後藤

〃 **日光太郎山・山王帽子山** <409>

東武日光ー光徳キャンプ場BCー太郎山・山王帽子山ー日光

△3 (天) 高橋、後藤

10 御小屋尾根より阿弥陀岳 <410>

茅野ー美濃戸口ー御小屋山ー阿弥陀岳ー行者小舎ー茅野

△2 (天) 高橋、後藤

〃 **肝要峠** <411>

五日市ー上巻沢ー金比羅尾根ー肝要ー肝要峠ー宮ノ平

△1 ひとり

〃 **摺古木山・安平路山・南木曽岳** <412>

飯田ー大平ー摺古木小舎ー摺古木山・安平路山往復ー大平峠ーあららぎー南木曽岳ー南木曽

△3 柿原(謙)、望月、中山啓司、伊東正樹

望月さんの計画に参加し、はからずも中央アルプス南端に登る。帰りがけの駄賃とばかり、南木曽岳を稼ぐ。快調。(柿原謙一)

11 岩堂峠 <413>

△1 ひとり

〃 **赤岩尾根より鹿島槍ヶ岳** <414>

K・G登頂、Y高千穂平まで

△3 (天) 柿原(和)、後藤

〃 **百蔵山・扇山・権現山** <415>

猿橋ー百蔵山ー扇山ー権現山ー用竹ー上野原

△2 (天) 柿原(謙)

猿橋で下車し、扇山で幕営して、三山を縦走した。星空の下での焚火とバイーの味。(柿原謙一)

12 笠山・大霧山 <416>

小川町－萩平－笠山－白石－旧定峰峠－大霧山－粥新田峠－寄居

①　　柿原(謙)

〃 鶏頂山・釈迦ヶ岳・明神岳 <417>

鬼怒川－鶏頂山荘－鶏頂山－釈迦ヶ岳－明神岳－無名峰－前黒林道－新湯－西那須野

②　天　　高橋、後藤

〃 経ヶ岳（途中まで） <418>

辰野－楡沢山（途中まで）－伊奈北－大萱－経ヶ岳（風雪のため引返す）－伊奈市

③　　柿原(謙)、佐々木

1983　（63才）

1 石割山・鹿留山・杓子山 <419>

富士吉田－平野－石割山－二十四曲峠－立ノ塚峠－鹿留山－杓子山－高座山－鳥居地峠－大明見－月江寺

②　天　　後藤

〃 三頭山 <420>

五日市－小岩－浅間嶺－数馬－鞘口峠－三頭山－槇寄山－西原峠－郷原

②　　柿原(謙)

〃 三ッドッケ・蕎麦粒山・川乗山 <421>

奥多摩－東日原－横スズ尾根－一杯水－三ッドッケ－仙元峠－ソバツブ山－川乗山－鳩ノ巣

②　天　　後藤

2 松生山 <422>

五日市－上川乗－浅間嶺－松生山－時坂－五日市

①　　柿原(謙)

〃 不老山から御正体山へ <423>

駿河小山－不老山－峰坂峠－湯船山－明神峠－三国山－三国峠－後陣山－切通峠－高指山－山伏峠－御正体山－細野－谷村町

③　天　　後藤

〃 蔵王山スキー <424>

③　　柿原(謙)、佐々木夫妻

3 岩茸石山から有馬山へ ＜425＞

軍畑ー岩茸石山ー黒山ー棒折山ー日向沢峰ー仁田山ー有馬山ー滝入山ー鳥首峠ー名郷ー東飯能

②　天　　後藤

〃 **菰釣山から畦ヶ丸・大室山へ** ＜426＞

富士吉田ー山伏峠ー石保土山ー菰釣山ー城ヶ尾峠ー畦ヶ丸ー白石丸ー加入道山ー大室山ー犬越路ー神ノ川ー東野ー藤野

③　天　　後藤

〃 **志賀高原スキー** ＜427＞

④　　須崎

4 奈良倉山・鹿倉山 ＜428＞

上野原ー飯尾ー長作ー鶴峠ー奈良倉山ー小菅ー大丹波峠ー鹿倉山ー大寺山ー深山橋ー奥多摩

②　天　　柿原(謙)

〃 **日之出山** ＜429＞

日向和田ー吉野梅郷ー琴平神社ー日之出山ー三ッ沢ー五日市

①　　高橋、後藤

〃 **神楽山・九鬼山** ＜430＞

猿橋ー田中峠ー大松山ー神楽山ー馬立山ー札金峠ー九鬼山ー禾生

①　　高橋、後藤

4～5 大中子山・長須ヶ玉山・燧ヶ岳・会津駒ヶ岳・三岩岳 ＜431＞

鬼怒川ー田島ー檜枝岐ー左惣沢出合ＢＣー大中子山・長得ヶ玉山往復ー御池ー燧ヶ岳ー大杉岳ー大津岐峠ー会津駒ヶ岳ー三ッ岩岳ー小豆温泉ー田島ー鬼怒川

⑦　天　　高橋、後藤

前年に味をしめ、今年もゴールデン・ウィークは南会津へ。連日好天に恵まれ、十二分に堪能した1週間だった。裏燧の広大な雪原や、燧の鋭峰を振り返りながらの縦走はとても気持良かったが、'77年11月ガスの中、かすかな踏跡を拾いながらヤブこぎをしたり、リングワンデルングをしながら、7時間かかって三ッ岩から駒へたどり着いた経験のある私には、残雪のありがたさは身に染みたものの、駒ー三ッ岩2時間半足らずはあまりにも呆気なく、拍子抜けしてしまった。ダケカンバの芽吹きから始まり、ブナの淡い新緑、シャクナゲの薄いピンク、ミツバツツジの派手なピンク、コブシの白、と山はだんだん色彩を増してゆき、小豆温泉はたけなわの春だった。（後藤章子）

5 武尊牧場・武尊山 ＜432＞

沼田ー鎌田ー武尊牧場ー沖武尊山ー裏見滝ー武尊橋ー水上

②　天　　高橋、後藤

5 高川山 ＜433＞

①　　ひとり

6 清水峠・七ツ小屋山 ＜434＞

土合ー湯檜曽川ー白樺尾根ー清水峠ー七ッ小屋山往復ー清水ー六日町（悪天候で朝日から巻機への縦走あきらめる）

③ 天　　高橋、後藤

〃 **水根沢林道** ＜435＞

奥多摩ー水根ー水根沢林道ー槍ノ木山ー倉戸山ー奥多摩

①　　柿原(謙)

〃 **六ツ石山** ＜436＞

奥多摩ー水根ー六ッ石山ー境ー奥多摩

①　　柿原(謙)、川崎精雄、野口庸子

7 土合幕営 ＜437＞

再び朝日、巻機縦走を計画するも雨

③ 天　　高橋、後藤

〃 **大蔵経寺山** ＜438＞

石和より遊びに行く

①　　ひとり

7～8 槍　平 ＜439＞

槍平から南岳・天狗原・東鎌尾根の予定が雨で御破算

③ 天　　（前半）柿原父子　（後半）原一家

亮さんは昭和１４年１２月（１９３９）の滝谷第四尾根を追想したかったのに、天候悪く展望できず。私は息子と槍ケ岳へ向い、亮さんは南岳へ。大塚武さんの事故は、この年８月末のことである。（柿原謙一）

8 種　池 ＜440＞

大町滞在、扇沢より種池往復

①　　ひとり

〃 **雪倉山麓道・風吹大池** ＜441＞

大町よりマイカーで蓮華温泉ー雪倉山麓道ー三国境ー小蓮華山ー白馬大池ー乗鞍岳ー風吹大池ー蓮華温泉

④ 天　　柿原父子

9 仙ノ倉谷 <442>

雨で谷に若干入っただけ

②天 高橋、後藤

10 生藤山 <443>

上野原ー和田峠ー生藤山ー三国山ー柏木町ー五日市

① 小林

11 茂来山・四方原山 <444>

羽黒下ー茂来山ー赤羽ノ頭ー四方原山ー白岩ー棡峠途中までー小海

③天 柿原(謙)、後藤

幕営2泊の稜線歩き。ついで棡峠越えを狙ったが、迷路多く、断念して旅終る。(柿原謙一)

〃 経ケ岳 <445>

伊奈北ー羽広観音ー第三ピットBCー経ヶ岳往復ー伊奈市

②天 柿原(謙)、佐々木

〃 陣馬尾根・御前山・中尾根 <446>

五日市ー日向平ー陣場尾根ー小河内峠ー惣岳山ー御前山ー中尾根ー神戸ー五日市

① 柿原(謙)、後藤

12 帯那山・水ガ森 <447>

山梨市ー戸市ー帯那山ー水ガ森ー弓張峠ー昇仙峡ー甲府

②天 後藤

〃 風張峠 <448>

五日市ー数馬下ー浅間尾根ー風張峠ー鞘口峠ー小河内神社ー奥多摩

① 柿原(謙)、後藤

〃 物語山・稲含山 <449>

軽井沢ー八風山ー物見山ー神津牧場ー荒船鉱泉ー物語山ー下仁田ー稲含山ー那須ー富岡

③ 柿原(謙)、佐々木

1984 (64才)

2 思親山 <450>

内船ー佐野峠ー思親山ー八木沢ー井出

②天 高橋、後藤

2 通矢尾根 <451>

①　　柿原(謙)

〃 **志賀高原スキー** <452>

④　　須崎

〃 **金時山** <453>

新松田ー地蔵堂ー金時山ー仙石原（大コンパ）

②　　柿原(謙)、高橋、後藤

3 陣馬山・明王峠 <454>

八王子ー関戸ー醍醐林道ー和田峠ー陣馬山ー明王峠ー相模湖

①　　ひとり

〃 **明星ヶ岳・明神ヶ岳** <455>

強羅ー宮城野橋ー明星ヶ岳ー明神ヶ岳ー道了尊ー小田原

②　天　　高橋、後藤

〃 **鉢岡山** <456>

藤野ー日連ー３７４メートル峰ー峠ー鉢岡山ー田ヶ岡ー藤野

①　　ひとり

〃 **大山三峰山** <457>

本厚木ー煤ヶ谷ー大山三峰山ー不動尻ー広沢寺温泉ー本厚木

①　　後藤

3～4 加波山・足尾山 <458>

樺穂ー加波山ーー本杉峠ー足尾山ーキノコ山ー伝正寺ー真壁

②　天　　後藤

とにかくこの冬は雪が多かった。３月末日の７００m そこそこの山だというのに鼻水が出て来る寒さで、標高５００m 弱に張ったテントの外は、翌朝一面の銀世界になっていた。筑波山まで歩くつもりだったが車道歩きに嫌気がさし、キノコ山で打ち切って「どっこい真壁の伝正寺」を見学してから帰京した。（後藤章子）

4 仏果山 <459>

本厚木ー宮ヶ瀬大橋ー仏果山ー半原越ー経ヶ岳ー華厳山ー高取山ーゴルフ場ー本厚木

①　　佐々木、高橋

〃 **石砂山・峰山** <460>

相模湖ー篠原ー石砂山ーゴルフ場ー川上ー峰山ーもう一つのゴルフ場ー藤野

①　　高橋、後藤

4 雨ノ沢山・黒山 ＜461＞

川井－大丹波－雨ノ沢山－黒山－小沢峠－小沢－東飯能

①　　ひとり

5 海谷山域 ＜462＞

大町よりマイカーで山を眺めに行く

③ 天　　柿原(和)、後藤

〃 **八方尾根・唐松岳・太郎山・権見山** ＜463＞

大町よりピストン

③　　後藤　（前半）柿原父子、木村

〃 **長者ケ岳・天子ケ岳** ＜464＞

富士吉田－本栖－田貫湖入口－田貫湖－長者ヶ岳－天子ヶ岳－小草里－大島峠－大島

② 天　　高橋、後藤

6 子持山・小野子山・十二ケ岳 ＜465＞

渋川－子持神社－子持山－茶屋ヶ松－小野子山－中ノ岳－十二ヶ岳－二日市－中之條

② 天　　柿原(謙)、佐々木、高橋、後藤

〃 **倉戸山・鷹ノ巣山** ＜466＞

柿原・山田同行１００回登山記念集会

② 天　　柿原父子、倉知、小林、那須、高橋、後藤

亮さんと私との同行１００回登山記念の集い。この山の台地は亮さんの発案。那須さん持参の１５万円の大テント内で、夕餉の大宴会。（柿原謙一）

7 熊野岳より南蔵王連峰 ＜467＞

白石－エコーライン－刈田岳－熊野岳－杉ヵ峰－芝草平－屏風岳－南屏風岳－不忘岳－碩石－白石

②　　柿原(謙)、佐々木夫妻

11 高尾山・小仏峠 ＜468＞

①　　ひとり

12 大　山 ＜469＞

①　　高橋、後藤

〃 **青梅丘稜** ＜470＞

①　　ひとり

1985　　（65才）

1 天覧山・多峰主山・コマ峠　　<471>
△1　　ひとり

〃 大塚山・高岩尾根　　<472>
△1　　高橋、後藤

〃 大高取山・鼻曲山　　<473>
越生－無名戦士の墓－大高取山－桂木山－桂木観音－鼻曲山－中在家－滝ノ入－越生
△1　　柿原(謙)、高橋、後藤

〃 南高尾山稜（南部）　　<474>
高尾山口－梅ノ木平－峰の薬師－草戸山－高尾山口
△1　　ひとり

2 南高尾山稜（北部）　　<475>
高尾山口－梅ノ木平－中沢山－大洞山－大観峠－高尾山－高尾山口
△1　　ひとり

〃 越上山・物見山　　<476>
吾野－顔振峠－越上山－北向地蔵－物見山－日和田山－高麗
△1　　高橋、後藤

〃 伊豆ケ岳　　<477>
△1　　柿原(謙)、高橋、後藤

3 高山不動・黒山三滝　　<478>
西吾野－間野－高山不動－黒山三滝－越生梅林－越生
△1　　高橋、後藤

〃 楢抜山・周助山　　<479>
東飯能－赤沢－楢抜山－仁田山峠－周助山－原市場－東飯能
△1　　高橋、後藤

4 一本松山・金剛山　　<480>
藤野－名倉－一本松山－葛原神社－金剛山－日向山－藤野
△1　　ひとり

4 道志二十六夜山 ＜481＞

都留市ー道坂峠ー今倉山ー二十六夜山ー玉川ー都留市

①　　高橋、後藤

5 鳴 虫 山 ＜482＞

東武日光ー神ノ主山ー鳴虫山ー合方ー第一発電所ー日光

①　　ひとり

〃 古峰原・横根山 ＜483＞

新鹿沼ー古峰神社ー古峰原高原ー三枚石ー横根山ー井戸湿原ー方塞山ー三枚石ー古峰神社ー新鹿沼

②　㊎　　高橋、後藤

'84．7の心臓発作以来、復帰第1号の幕営山行である。新緑、満開のツツジ、なだらかな道、広々とした草地のテント場、と条件が整い、山田さんは天幕の山旅に自信を回復したようだった。裸足で歩き回れるテント場というのが山田さんの大のお気に入りだった。靴を脱ぎ捨て、テントの外で車座になっての宴会は日が暮れるまで続いた。（後藤章子）

6 駒ケ岳・神山 ＜484＞

箱根湯本ー駒ヶ岳ロープウェイー駒ヶ岳ー神山ー大湧谷

①　　須崎

〃 吉野山（奈良本山） ＜485＞

藤野ー二色鉱泉ー吉野山ー奈良本ー藤野

①　　ひとり

〃 三方分山・蛾ガ岳 ＜486＞

富士吉田ー本栖ーパノラマ台ー精進山ー三方分山ー釈迦ヶ岳（G．Tのみ）ー八坂ー折門峠ー蛾ヶ岳ー大畠山ー市川大門

②　㊎　　高橋、後藤

9 半 月 山 ＜487＞

東武日光ー茶ノ木平ー半月山ー半月峠ー茶ノ木平ー展望台ー中禅寺湖ー日光

①　　ひとり

10 大山南山稜 ＜488＞

伊勢原ー大山ケーブルー下社ー浅間山ー善波峠ー鶴巻温泉

①　　ひとり

〃 岩 殿 山 ＜489＞

大月ー岩殿山ー天神山ー稚子落しードヅラ峠ー大月

①　　後藤

10 御春山・寺山 <490>

四方津ー大野貯水池ー御春山ー寺山ー梁川

①　　ひとり

11 唐松尾山・飛竜山 <491>

塩山ー三之瀬ー山の神土ー唐松尾山ー将監峠ー飛竜山ー前飛竜ー熊倉山ーサオラ峠ー大丹波

②　㊡　　高橋、後藤

12 南高尾山稜（北部） <492>

①　　柿原(謙)、佐々木

〃 **尾崎山・大野山**（文台山） <493>

十日市場ー尾崎山ー大野山ー上小野ー谷村町

①　　後藤

〃 **雨乞岳・日向山** <494>

日野春駅前旅前旅館をベースとしてピストン、雨乞岳は八合目まで

③　　柿原、佐々木、後藤

恒例の年末の山旅で、日野春駅前の志満屋に2泊。雨乞岳直下のコルで、鋸岳を眺めつつ、亮さん学生時代に縦走中、登山袋が転がりおちた話をきく。（柿原謙一）

1986　（66才）

1 小持山高ワラビ尾根 <495>

東飯能ー妻坂峠ー大持山ー小持山ー高ワラビ尾根ー浦山口

①　　柿原(謙)、小林、後藤

2 水沢山・相馬山 <496>

渋川ー水沢観音ー水沢山ー相馬山ー榛名湖畔ー渋川

①　　柿原父子、倉知、後藤

'84年7月健康を損ねた亮さんが、回復された。爾後私との山行は7回ある。急登の岩場があり、「選定を誤ったョ」と相馬山でつぶやかれた。3月頃から「胸部の痛みが再発」との便りをうけた。亮さんとの同行108回は、この山で終った。淋しい思いの山。（柿原謙一）

〃 **達沢山** <497>

石和ー立沢ー達沢山ー十郎ー石和ー三ッ星ー道に迷い摺針峠に達せずー三ッ星ー石和

②　　高橋、後藤

2 甲東不老山 <498>

上野原－森久保－金比羅山－切通し－高指山－不老山－森久保－上野原

①　高橋、後藤

3 鷹 取 山 <499>

藤野－トンネル上の神社－鷹取山－上沢井－藤野

①　那須、後藤

〃 セイメイバン山・宮路山 <500>

大月－西奥山－ドズラ峠－セイメイバン山－宮路山－菅沼－下瀬戸－猿橋

①　高橋、後藤

日帰りの山
ムリヤリコース

① 天地山
② 鳩ノ巣城山
③ 鉄五郎新道・広沢山
④ 日の出山北稜
⑤ 千足沢
⑥ 光明山東稜
⑦ 梅ヶ谷峠・馬引沢峠
⑧ ボンゼン山
⑨ 刈寄山舟子尾根
⑩ 要倉山
⑪ 小楓峠・浅間峠
⑫ 大羽根山
⑬ 仙洞寺山・茨菰山
⑭ 御前山三山
⑮ 入道丸ムギチロ
⑯ 高畑山・雛鶴峠
⑰ 花咲山
⑱ 大久保山
⑲ 倉見山
⑳ 三ッ峠山
㉑ 大沢山
㉒ 古部山
㉓ 日影雁腹摺山・雲母山
㉔ 大寺山・三ッ森
㉕ 源次郎岳・恩若峰
㉖ 妙見山
㉗ 兜山・棚山
㉘ 八幡山・天狗山
㉙ 大刀岡山・黒富士
㉚ 神座山
㉛ 釈迦ヶ岳・黒岳
㉜ 篭坂峠・大洞山
㉝ 白銀山
㉞ 城山・幕山・南郷山
㉟ 世附権現山
㊱ シダンゴ山・高松山
㊲ 大山唐沢川
㊳ 辺室山
㊴ 鐘ヶ岳北稜
㊵ 笙ノ岩山
㊶ 子の権現、大高山・天覚山
㊷ ツツジ山
㊸ 柏木尾根・大築山
㊹ 横隈山
㊺ 不動山
㊻ 陣見山
㊼ 四阿屋山
㊽ 天理岳
㊾ 浅間隠山
㊿ 掃部ヶ岳・杏ヶ岳
(51) 赤城山（地蔵岳・荒山）
(52) 吾妻耶山
(53) 吾妻山
(54) 鳴神山
(55) 飯盛山・高館山
(56) 石裂山
(57) 鶏鳴山・笹目倉山
(58) 羽賀場山
(59) 三ノ宿山
(60) 丸山・大山
(61) クラゴ山・殿平
(62) 滝子山南稜
(63) 大山薬師尾根
(64) 官ノ倉山西尾根
(65) 八王子城跡・北稜と南稜
(66) 〃 ・太鼓曲輪尾根
(67) 石砂山東尾根から石老山
(68) 雷電山から御岳山
(69) 官ノ倉山
(70) 遠平山から大平山
(71) 前比企三山
(72) 小倉山
(73) 女岳・宝登山
(74) 天神山城地・大平山

天幕の山旅
69コース

① 笊ヶ岳
② 七ッ峰・智表山<無双連山>
③ 朝日岳・沢口山
④ 高塚山・京丸山・竜馬ヶ岳
⑤ 大無間山・小無間山
⑥ 竜爪山・真富士山
⑦ 八紘嶺・七面山
⑧ 毛無山・熊森山・御堂平
⑨ 雨ヶ岳・竜ヶ岳
⑩ 天狗山・神座山
⑪ 大烏山
⑫ 雲母山・京戸山・大沢山
⑬ 釈迦ヶ岳・春日山・滝戸山
⑭ 宮宕山・甲州高尾山
⑮ 牛ノ寝通り・奈良倉山
⑯ 奈良倉山・麻生山・権現山
⑰ 和名倉山
⑱ 鳥の胸山
⑲ 檜洞丸
⑳ 丹沢三ッ峰・塔ノ岳・鍋割山
㉑ 西谷山・矢岳
㉒ 西谷山・熊倉山
㉓ 大平山・大ドッケ・五社山
㉔ 笙ノ岩山・仙元峠
㉕ 両詰山・天理岳
㉖ 東福寺渓谷・笠丸山
㉗ 張付山・天丸山
㉘ 檜沢岳・烏帽子岳
㉙ 久慈男体山
㉚ 堅破山
㉛ 鳴神山・吾妻山
㉜ 仙人ヶ岳・赤雪山
㉝ 三境山・氷室山
㉞ 根本山・熊鷹山・丸岩岳
㉟ 石裂山・鶏鳴山・笹目倉山
㊱ 夕日岳・行者岳・古峰原
㊲ 女峰山・大真名子山・男体山
㊳ 日留賀岳
㊴ 錫ヶ岳
㊵ 黒檜岳・宿堂坊山
㊶ 流石山・大倉山・三倉山
㊷ 家老岳
㊸ 小野岳<見明山>
㊹ 博士山
㊺ 田代山・台倉高山・鬼怒沼
㊻ 西吾妻山
㊼ 粟ヶ岳
㊽ 五剣谷岳・青里岳
㊾ 御神楽岳・日尊の倉山・貉ヶ森山
㊿ 会津朝日岳・丸山岳<坪入山>
(51) 平ヶ岳・剱ヶ倉山・大水上山
(52) 浅草岳
(53) 未丈ガ岳
(54) 金城山
(55) 八海山・中ノ岳
(56) 朝日岳・柄沢山・巻機山
(57) 仙ノ倉山・大源太山・三国峠
(58) 赤谷川笹穴沢
(59) 小出俣山
(60) 稲包山<唐沢山>
(61) 赤城山(黒檜山・荒山)
(62) 蒿山・蟻川岳・岩本山
(63) 岩櫃山・吾嬬山<高田山>
(64) 白砂山・佐武流山・苗場山
(65) 小松原湿原
(66) 大高山・赤石山
(67) 岩菅山・笠法師山・鳥甲山
(68) 浅間隠山
(69) 戸隠山・笹ヶ峰

南北アルプス
拾遺8コース

(70) 上河内岳・光岳・池口岳
(71) 仙丈岳・間ノ岳・塩見岳
(72) 早川尾根・鳳凰三山
(73) 有明山
(74) 餓鬼岳・唐沢岳
(75) 槍平・天狗原・東鎌尾根
(76) 高天ヶ原新道
(77) 仙人池・早月尾根

山行総括表

年	山行回数				登頂			滞山
	全	日帰り	2日以上	内テント	新	再	全	日数
1934	3	0	3	2	9	1	10	8
35	3	1	2	1	8	0	8	9
36	1	0	1	1	6	4	10	3
37	11	3	8	3	37	4	41	55
38	18	4	14	5	26	11	37	93
39	13	2	11	8	15	14	29	87
40	13	1	12	5	3	19	22	77
41	7	1	6	5	2	15	17	33
42	8	4	4	2	10	7	17	28
1954	1	0	1	0	0	0	0	2
56	3	2	1	1	0	0	0	6
60	1	0	1	0	0	0	0	2
61	2	0	2	0	0	0	0	6
62	1	0	1	0	0	0	0	4
63	1	0	1	0	0	0	0	4
64	1	0	1	0	1	0	1	4
65	1	0	1	0	0	1	1	5
66	8	1	7	2	8	5	13	21
67	13	4	9	0	16	11	27	31
68	14	5	9	0	11	12	23	34
69	20	5	15	0	28	5	33	49
70	20	2	18	1	43	3	46	51
71	14	4	10	2	13	6	19	32
72	26	6	20	5	34	9	43	60
73	28	5	23	5	31	16	47	80
74	19	3	16	6	12	17	29	56
75	22	3	19	5	12	15	27	47
76	14	5	9	1	7	7	14	33
77	14	2	12	5	11	11	22	41
78	9	0	9	2	4	2	6	33
79	21	6	15	5	14	13	27	45
80	24	12	12	8	31	23	54	45
81	27	12	15	5	26	25	51	65
82	37	11	26	18	62	23	85	85
83	31	10	21	16	48	22	70	68
84	21	10	11	7	30	14	44	36
85	24	20	4	3	44	4	48	28
86	6	5	1	0	9	2	11	7
合計	500	149	351	129	611	321	932	1,373